

SYLLABUS

講義要項

2022

介 護 福 祉 科



学校法人 川口学園

早稻田速記医療福祉専門学校

目 次

利用の手引き

介護福祉科	1 年生	1
介護福祉科	2 年生	35

利 用 の 手 引 き

この『講義要項』は、早稲田速記医療福祉専門学校の2022年度の授業科目について、講義の内容をあらかじめ示したものです。皆さんは、これに従って自分の履修する授業科目について詳しく知ることができます。

以下に授業科目の各項目を読むにあたっての留意点を示しますので、よく参照のうえ、この『講義要項』を十分に活用してください。

【基 本 情 報】

基本情報欄は、授業科目の属性（科目区分）を記載する欄であり、次の項目についてカリキュラムに明記されている授業科目の属性を記載しています。

科目名	①			担当教員		②		単位数	③
対象学科	④			学年	⑤年	授業形態	⑥	法令等指定	⑦
履修方法	⑧	科目内容	⑨	授業期間	⑩	授業期	⑪	卒業要件	⑫
実務経験教員	⑬	実務経験内容	⑭						

記載項目	記載事項
①科目名	カリキュラムに記載されている授業科目名
②担当教員	授業科目の担当教員名（同一の授業を複数の教員が担当する場合は連名併記）
③単位数	カリキュラムに記載されている授業科目の単位数
④対象学科	その授業を実施する学科名（同一の授業科目を複数の学科で実施する場合は併記せず、それぞれ別に作成）
⑤学年	カリキュラムに記載されている授業科目の実施学年
⑥授業形態	カリキュラムに記載されている授業科目の授業形態（講義、演習、実技、実習など）
⑦法令等指定	カリキュラムに法令等による資格取得に関わる授業科目とある場合は○印を記入
⑧履修方法	カリキュラムに記載されている履修方法による科目区分（登録指定科目、選択科目）
⑨科目内容	カリキュラムに記載されている科目内容による登録指定科目の科目区分（基礎科目、専門科目、関連科目）
⑩授業期間	カリキュラムに記載されている授業期間による科目区分（半期、通年、集中）
⑪授業期	その授業科目を開講する授業期（前期、後期）
⑫卒業要件	カリキュラムに単位取得が卒業要件となっている科目の場合は○印を記入
⑬実務経験教員	実務経験のある教員による授業科目の場合は○印を記入
⑭実務経験内容	実務経験のある教員が経験した実務内容と、その経験を生かして行う教育内容

【位 置 付 け】

その授業科目が、学校・学科の教育目的・目標とどのように関連しているのか、カリキュラムの中でどのような位置付けを与えられ、何を期待されているのかを記載しています。

【授 業 の 目 的】

授業の目的欄は、担当教員はその授業の分野、テーマにおいて何をポイントとして、何を伝えたいか、授業の目的は何かを記載しています。

【授業の到達目標】

その授業の終了時点で学生はどのような知識、技能などを得られるのか、何ができるようになっていくのか。そのような到達目標を記載しています。

【成績評価の方法】

成績評価の項目とその評価割合が記載されています。

※出席状況については学則第27条により、一部の実習科目を除き、評価割合に関わらず、出席時間数が授業時間数の2/3以上なければ評価の対象になりません。

【成績評価に関するコメント】

設定した成績評価項目と授業の到達目標との関連、具体的な評価項目の実施内容・実施方法、その他に特殊な出席の取扱いなどを記載しています。

【学生へのメッセージ】

担当教員から、授業への取り組み方や授業を進めるに際してお願いしたいことを記載しています。

【テ キ ス ト】

授業に使用するもので、受講者全員が所持すべきものを記載しています。

【参考図書・資料・参考ホームページ】

授業の参考として学生が各自の判断で入手するものを記載しています。

【授 業 計 画】

目標に到達するための授業の内容、進め方（方法）を各授業の回毎に具体的に記載しています。

介 護 福 祉 科 1 年生

介護福祉科 2022年度生カリキュラム

科目区分		領域	教育内容	科目名	授業 形態	1年次		2年次		合計		介護 福祉士 受験資格	
履修 方法	科目 内容					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数		
登録指定科目	基礎科目	人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	講義	2	30			2	30	○	
			人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	2	30			2	30	○	
				人間関係とコミュニケーションⅡ	講義	2	30			2	30	○	
			社会の理解	社会の理解Ⅰ	講義	4	60			4	60	○	
				社会の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○	
				日本文化論	講義	2	30			2	30	○	
				情報と社会	講義	2	30			2	30	○	
	専門科目	介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	講義	2	30			2	30	○	
				介護の基本Ⅱ	講義	4	60			4	60	○	
				介護の基本Ⅲ	講義			2	30	2	30	○	
				介護の基本Ⅳ	講義			3	45	3	45	○	
				介護の基本Ⅴ	講義			2	30	2	30	○	
			コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	講義	2	30			2	30	○	
				コミュニケーション技術Ⅱ	講義	2	30			2	30	○	
			生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	演習	2	30			2	30	○	
				生活支援技術Ⅱ	演習	2	30			2	30	○	
				生活支援技術Ⅲ	演習	4	60			4	60	○	
				生活支援技術Ⅳ	演習			4	60	4	60	○	
				生活支援技術Ⅴ	演習	2	30			2	30	○	
				生活支援技術Ⅵ	演習	2	30			2	30	○	
				生活支援技術Ⅶ	演習			4	60	4	60	○	
			介護過程	介護過程Ⅰ	演習	4	60			4	60	○	
				介護過程Ⅱ	演習			4	60	4	60	○	
				介護過程Ⅲ	演習			2	30	2	30	○	
			介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	演習	4	60			4	60	○	
				介護総合演習Ⅱ	演習			4	60	4	60	○	
			介護実習	介護実習Ⅰ	実習	3	90			3	90	○	
				介護実習Ⅱ	実習	5	150			5	150	○	
				介護実習Ⅲ	実習			6	180	6	180	○	
				介護実習Ⅳ	実習			1	30	1	30	○	
			こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	講義	4	60			4	60	○
					こころとからだのしくみⅡ	講義			4	60	4	60	○
				障害の理解	障害の理解	講義	4	60			4	60	○
				発達と老化の理解	発達と老化の理解Ⅰ	講義			2	30	2	30	○
					発達と老化の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○
				認知症の理解	認知症の理解	講義			4	60	4	60	○
				医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	5	75			5	75
	医療的ケアⅡ	演習					1	15	1	15	○		
	科関連			介護福祉ゼミⅠ	演習	2	30			2	30		
				介護福祉ゼミⅡ	演習			2	30	2	30		
				介護福祉事務	講義			2	30	2	30		
合 計						67	1,125	51	870	118	1,995		

※介護福祉科の卒業には、修業年限以上在学し、介護福祉士資格取得に必要な全教科の単位を修得し、かつ1700時間相当の単位数の修得が必要

科目名	人間の尊厳と自立			担当教員		山本 貴子		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士、居宅介護支援専門員として、訪問介護12年、居宅介護支援5年、看多機等で勤務。社員等への研修に係わる。他経営に携わる。						
□位置付け 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。									
□授業の目的 ●これまでの福祉の歴史において、社会保障の制度、施策について基本的な知識を身につける。 ●人権や福祉理念が変わってきたかを理解し、人間の尊厳を学ぶ。 ●自立の重要性を理解することで、利用者の主体性を大切にした自立支援のあり方を考え、実践できるようになる。 ●組織でのコミュニケーションの基礎を学ぶ。									
□授業の到達目標 ●福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の人権や権利擁護を考えられるようになる。 ●利用者主体の視点で、尊厳保持や自己決定の考え方を理解できるようなる。 ●支援のあり方を理解し、尊厳の守る自立支援を理解できる。 ●組織において自らの考え方を伝えられるようになる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況					毎回授業の終わりにレポート提出していただき、評価をさせていただきます。				
試験等	提出物				□学生へのメッセージ 介護福祉の基本を学びます。意見を聞くこと、話すこと、書くこと重視しながら講義を勧めていきます。				
	レポート			50					
	随時試験								
	定期試験			50					
	平常の授業状況(授業態度)								
その他 ()									
合 計				100%					
□テキスト 介護福祉士養成講座 1 人間の理解					□参考図書・資料・参考ホームページ				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	人間の尊厳と利用者主体	人間を理解することを学ぶ
2	人権思想の潮流とその具現化	人間の尊厳と人権思想の歴史を学ぶ
3	人権や尊厳に関する日本の諸規定	日本国憲法をもとに人権や尊厳について学ぶ
4	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①	人権・福祉理念を歴史から学ぶ。社会福祉の始まり
5	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②	人権・福祉理念を歴史から学ぶ。戦後の福祉
6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷③	人権・福祉理念を歴史から学ぶ。社会福祉の変遷
7	人権尊重と権利擁護①	介護を必要とする人について学ぶ
8	人権尊重と権利擁護②	利用者主体のあり方を学ぶ
9	振り返り	第1節を振り返り、事例をもとに考えてみましょう。
10	自立の概念の多様性	自立の概念について学ぶ
11	自立とは	自立の理念と意義について学ぶ
12	介護を必要とする人の自立と自立支援	自立支援に必要なことを学ぶ
13	介護を必要とする人の尊厳保持と自立	尊厳を守る自立支援について学ぶ
14	振り返り	第2節を振り返り、事例をもとに考えてみましょう。
15	定期試験	

科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ			担当教員		松田 朗		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	3 年間の施設介護と 20 年間の訪問介護の実務経験、15 年間の管理職経験、PSW として 15 年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
□位置付け									
対人援助に必要な人間の関係性を理解し関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。									
□授業の目的									
①人との関わりを通して人の心はどのように成長するのかを理解する。									
②コミュニケーションの構造や特性について理解する。									
③支援者として重要なコミュニケーションの基礎を理解する。									
④組織において求められるコミュニケーションの要点を理解する。									
□授業の到達目標									
①人との関わりが人の心の成長に及ぼす影響について、科学的な根拠に基づいた表現ができる。									
②コミュニケーションの構造や特性に基づいた目的のある対話を具体的に想定できる。									
③対人援助における基本的態度を体現（反応）できる。									
④集団討議（目的の共有と自由な意見交換）ができる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況					・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。				
試験等	提出物				・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。				
	レポート			50	□学生へのメッセージ				
	随時試験				・遊び心を大切に、感性を磨きましょう。				
	定期試験			50	・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。				
	平常の授業状況（ ）				・一緒に学びを楽しみましょう。				
その他（ ）				・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp					
合 計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
・最新介護福祉士養成講座 1 人間の理解（中央法規）第 2 版					・「わかりあえないことから」平田オリザ著 ・「聴く・伝える・共感する技術便利帳」大谷佳子著				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	講師紹介／授業内容解説／評価方法解説／他
2	自分と他者の理解	自己理解、他者理解、自己開示などについて学びます。
3	発達心理学から見た人間関係	発達段階説、パーソナリティなどについて学びます。
4	社会心理学から見た人間関係	他者との関わり、集団との関わりなどについて学びます。
5	人間関係とストレス	ストレス対処行動などについて学びます。
6	まとめのテスト／振り返り	1 回目から 5 回目の授業内容を整理します。
7	コミュニケーションの基本構造	対人関係におけるコミュニケーションを学びます。
8	コミュニケーションの手段	非言語の種類とメッセージについて学びます。
9	対人援助における基本的態度	受容、共感、傾聴について学びます。
10	援助的人間関係の形成	援助関係を形成する 7 つの原則について学びます。
11	バイスティックの 7 原則	バイスティックの 7 原則についてさらに考えます。
12	まとめのテスト／振り返り	7 回目の授業～11 回目の授業の内容を整理します。
13	組織とコミュニケーションの特徴	組織の条件とコミュニケーションの特徴を学びます。
14	情報の流れとコミュニケーション	組織における情報の流れと求められる能力を学びます。
15	期末試験	レポート提出

科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ			担当教員		藍原 義勝		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として医療法人が経営する在宅サービスに約２０年間勤務。 患者・利用者の相談援助に従事する傍ら、地域づくりに１０年以上活動 している。事例・経験をもとに講義を行う。						
□位置付け 介護実践のために必要な人間関係の理解や、対人援助理解、基礎的なコミュニケーション能力を養うと同時に に「介護サービスの特性」「チームマネジメントの基本」に対する考え方とその取り組みについて学ぶ。									
□授業の目的 介護は医療や保健等からなる包括的なチームによる実践です。チームで働く力を養うためには、マネジメン トに関する基礎的な知識をおさえるだけでなく、リーダー・フォロワーがとるべき行動を理解し、チームワ ークを展開できる実践力について学ぶ。									
□授業の到達目標 ① 組織の運営と管理を理解する。 ② 人材の育成や活用を理解する。 ③ リーダーシップとフォロワーシップを理解する。 ④ チームマネジメントの基礎的な知識を理解する。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント ・出席状況を評価項目に設定します。 ・また、定期試験は、予め提示したテーマについてその内容説明 と自分の理解を記載する論述式とします。				
出席状況				20	□学生へのメッセージ ・人とのコミュニケーションを通じて、「チーム力を向上」させ る大事さや、要点を一緒に学びましょう。それは、どんな仕事に も適応できるオールマイティーなものです。				
試 験 等	提出物			—					
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			80					
	平常の授業状況（ ）			—					
その他（ ）			—						
合 計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解(中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ ・介護リスクマネジメント（事故防止編とトラブル 編）				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護サービスの特性と求められるチームマネジメント	介護の特性を学ぶ
2	チームマネジメントの基本	チームマネジメントの基本を学ぶ
3	ケアを展開するために必要なチームとその取組	ケアを展開するために必要なチームとその取組を学ぶ
4	実践力を高めるためのチームマネジメント	実践力を高めるために大事な要点を学ぶ
5	チームに必要なリーダーシップとフォロワーシップ	リーダーシップとフォロワーシップについて学ぶ
6	介護福祉職のキャリアデザインと求められる実践力	キャリアデザインについて学び、自分の未来について想像する
7	介護福祉職のキャリア支援・開発	キャリア支援・開発の存在と重要性について学ぶ
8	介護福祉職のキャリア開発と自己研鑽	自己研鑽の実際について学ぶ
9	介護サービスを支える組織の構造・機能と役割	現場施設の組織体系について学ぶ
10	ケースメソッド「チーム」によるアセスメントの歪み①	ケースを通して、アセスメント時の課題と改善策について考える
11	ケースメソッド「チーム」によるアセスメントの歪み①	ケースを通して、アセスメント時の課題と改善策について考える

12	自立支援の介護サービスと多職種連携	自立支援サービスする際の介護士の「視点」と多職種連携の基本の「き」について学ぶ
13	これまでの振り返り	過去の復習をする
14	地域におけるチームマネジメント	実践団体である東京都大田区にある「みま～も」について学ぶ
15	定期試験	試験を受ける

科目名	社会の理解 I			担当教員		星野 有史		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
□位置付け									
対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。									
□授業の目的									
少子高齢化が進む社会にあって子育てや介護、貧困などの問題は深刻であり、さまざまな福祉課題が問われています。それらに対する制度の充実、行政の役割は重要ですが、家族や住民を支援しつつ、協同するネットワークがなければ地域共生社会の実現は難しいでしょう。『社会の理解』ではこうした問題の社会背景を分析し、現代社会に問われる福祉・介護の課題に迫っていきます。									
□授業の到達目標									
1 家族と地域について学ぶことにより、心理・社会的洞察力、生活ニーズを把握するための視点を養うことができる。									
2 介護保険制度、障害者総合支援制度、生活保護制度などの社会福祉・社会保障の知識を得ることで、要介護者と家族に適切な情報を提供することができる。									
3 地域包括ケアについて理解することで、家族や住民、他職種と連携を図ることができる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				—	制度の理解は必要ですが、同時に人権感覚、尊厳の意味、社会問題を捉える視点は重要です。したがってレポート試験と共に、課題の提出、授業参画度などを合わせて評価します。出席状況は評価の前提です。				
試験等	提出物			30	□学生へのメッセージ				
	レポート			50	教科書の理解は勿論ですが、関連する文献に触れたり、ボランティア活動や福祉対象者と関わるなど、体験的に学ぶ時間を作ってください。授業では事例検討を多く取り入れますので積極的な発言をお願いします。				
	随時試験			—					
	定期試験			—					
	平常の授業状況(授業態度)			20					
	その他 ()			—					
合 計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 (中央法規)									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	福祉学習の視点	生活ニーズの捉え方と介護福祉士の視点を学びます
2	福祉問題の捉え方	少子高齢社会の問題を全体関連的に捉えます
3	援助の原理	援助の原理を相互扶助・慈善事業から探求します
4	社会と貧困対策	救貧法と博愛事業から制度と実践の起源を学びます
5	社会福祉の成立	社会事業と戦後社会福祉の発展を学びます
6	社会福祉とは何か	福祉の概念と社会保障制度の構造を把握します
7	社会保障制度の概要	社会保障の目的と機能、制度を体系的に理解します
8	社会福祉と人権	日本国憲法と社会保障（生存権）について学びます

9	生活保護法の概要	健康で文化的な最低限度の生活について考えます
10	現代社会と福祉問題	社会変化に伴う心理・社会的ニーズを分析します
11	社会福祉と援助システム	家族支援と地域包括ケアシステムの機能を学びます
12	多問題家族と地域支援	行政・住民・専門職などの連携について検討します
13	福祉コミュニティの概念	地域問題を捉え、生活共同体の課題を明確にします
14	地域生活とボランティア	地域活動について公私役割の課題を明確にします
15	地域共生社会の課題	インクルーシブ社会と多様性の課題をまとめます

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	少子高齢化と家族支援	人口構造と生活機能の変化について理解します
17	高齢者福祉の概念	老いの特質と高齢者支援の諸制度を理解します
18	社会変動と介護保障	家族介護から社会的介護の変遷を考察します
19	介護保険制度の概要	介護保険創設の背景（措置から契約へ）を学びます
20	介護保険制度の仕組み	申請・要介護認定・ケアプラン・実施過程を見ます
21	ケアマネジメントの概念	地域包括支援センターと専門職の連携を学びます
22	高齢者保健福祉の課題	人生の質（QOL）を高める介護について考えます
23	自立支援の目的	介護保険と障害者支援を基盤に自立を検討します
24	人権と生活保障	権利擁護と成年後見制度について学びます
25	障害者総合支援法の概要	障害者支援の変遷と諸制度を体系的に理解します
26	障害者総合支援法の仕組み	申請・障害支援区分の認定・実施過程を見ます
27	障害者福祉の概念	ノーマライゼーションと社会参加について考えます
28	障害者保健福祉の課題	国際生活機能分類（ICF）の障害概念を分析します
29	バリアフリー社会の課題	心と社会のバリアフリーが意味する課題を考えます
30	介護と生活環境	地域共生社会が目指す社会像についてまとめます

科目名	日本文化論			担当教員		内村 佳代子		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	航空会社営業部に8年間勤務後、接遇コンシェルジェとして3年間勤務。これらの実務経験をもとに職場における周りの方々への心遣いやマナーの大切さを伝える。						
□位置付け 介護を実施するにあたって必要な礼儀作法や社会人としてのマナーや接遇、日本の伝統文化について理解する。									
□授業の目的 ①介護現場に求められる心遣い・適切な言葉遣い・身だしなみ・立ち居振る舞いを習得する。 ②職場での良好な人間関係の築き方を学ぶ。 ③高齢者が大切にし、馴染んできた日本の文化や習慣を理解する。									
□授業の到達目標 ①社会人としてのマナー、接遇の心構えを学ぶことで、相手を大切にする思いやりの心を養う。 ②社会人としてのマナー、接遇の基本を実践することで、良好な人間関係を築く。 ③高齢者が大切にし、馴染んできた日本の文化や習慣を学ぶことで、相手に寄り添う姿勢を学ぶ。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				30	出席数と授業態度を重視します。 積極的に授業に参加してください。				
試験等	提出物			—	□学生へのメッセージ 「わかる」から「できる」まで、ロールプレイングやグループワークを通して体験的に学びます。 一緒に頑張りましょう。				
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			40					
	平常の授業状況(授業態度)			30					
その他 ()			—						
合 計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ オリジナルレジュメ配付				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	接遇マナーとは	心を形に、形に心を添えるおもてなしの気持ち
2	介護福祉士に必要な資質	人間関係を築くコミュニケーションマナー
3	日本の伝統文化としきたり	季節の祭事
4	信頼関係を築く言葉遣い	敬語の種類と使い方、好感を持たれる言葉遣い
5	電話応対	電話の受け方、掛け方
6	来客者の応対	受付、案内、お茶出し、見送り
7	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの特徴と形式
8	仕事の進め方の留意点	指示の受け方と報告・連絡・相談の仕方
9	ビジネス文書の基本	手紙の書き方、封筒の宛名書き
10	慶弔時への対応	冠婚葬祭のしきたり
11	日本の地理	日本の地理と都道府県の特徴
12	来客応対ロールプレイング	応対者と訪問者の言葉遣い・立ち居振る舞いの実践
13	傾聴の重要性、会話の留意点	上手な聴き方とわかりやすい伝え方
14	総復習	日本文化論の総まとめ
15	定期試験	

科目名	情報と社会			担当教員		飯田 恵美子		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	製品・サービス企画として IT 系企業に 13 年勤務。IT 業界の最新の市場動向を分析し、製品の改善と普及に努める。						
□位置付け 現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について理解する。									
□授業の目的 ①「society 5.0 社会」において、学生が主体的に社会の一員として活躍し続けるための基盤となる知識と技術を身につける。 ②「society 5.0 社会」における介護福祉・地域福祉のあり方について考察し理解を深める。									
□授業の到達目標 Society 5.0 社会での介護のありかたを理解し、ロボット介護など適切に検討、導入することができるようになる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況					毎回、その回のまとめなど課題を提出することで評価します。理解状況を把握するため、わからなかった点があればそのように書いてください。理解が足りない点については次回フォローの参考にします。				
試験等	提出物			80%	□学生へのメッセージ 介護と ICT という、離れた印象のある授業ですので、できるだけかみ砕いた内容でお伝えしたいと考えています。				
	レポート								
	随時試験								
	定期試験								
	平常の授業状況(授業態度)		20%						
その他 ()									
合 計				100%					
□テキスト 必要に応じてプリント配布					□参考図書・資料・参考ホームページ 二訂版 スマート介護士資格 公式テキスト For Basic & Expert				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方を説明。PC 基礎（コンピューターの基本）
2	PC 操作 1	Windows の基本と操作方法の確認。アプリの起動方法やエクスプローラーなどファイル操作
3	PC 操作 2	文字入力の基本と応用。単語登録や難読文字の入力方法など
4	アプリ操作 1	Word の基本操作
5	アプリ操作 2	Excel の基本操作
6	ソフトウェア技術動向	AI や IoT などの動向について解説
7	ハードウェア・インフラ動向	5G, クラウドを利用したエッジコンピューティングの動向について解説
8	スマート社会 (Society 5.0) 未来へのアプローチ	前の 2 回を踏まえ、ネットと介護が結びつく将来像をイメージしてもらう
9	機械学習体験 1 (準備)	機械学習アプリまたはクラウドサービスによる学習体験。
10	機械学習体験 2 (実習)	機械学習体験の実施
11	介護ロボット概論	介護ロボット市場規模や取り組みなど
12	介護ロボットの事例	(介護) ロボットを活用した事例紹介
13	介護ロボットの運用	介護ロボットの活用のシステム化にあたり、必要なこと

14	介護支援業務システムの導入	介護ロボットを業務に取り入れるまでの過程や問題について
15	まとめ（未来の話）	これからの介護ロボットのありかたについて

科目名	介護の基本Ⅰ			担当教員		笠倉 賢一		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	鍼灸師、あん摩マッサージ指圧師の資格があり、現在は理学療法士として病院・クリニックで20年勤務。自身の経験をもとにリハビリテーション介護技術を伝える。						
□位置付け 介護福祉士として要介護者の自立支援及び社会生活能力の維持拡大への援助に関する実践能力を身につける。リハビリテーションの領域と役割を理解する。									
□授業の目的 リハビリテーションの理念を理解し、介護の目標・機能などとの関連を学ぶ。 1. リハビリテーションの理念と基本原則について学ぶ。 2. 障害の程度とその影響を理解する。 3. 目標設定とリハビリテーション計画について学ぶ。 4. 障害別リハビリテーションの実際について理解する。 介護福祉士として要介護者の自立支援及び社会生活能力の維持拡大への援助に関する実践能力を身につける									
□授業の到達目標 1. 全人間的復権を図る活動が本来のリハビリテーションであることを学ぶ。 2. リハビリテーションで用いる基本的用語を理解する。 3. 各疾患のリハビリテーションについて理解する。 4. リハビリテーション介護技術の基本となる考え方を理解する。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント 基本的には期末試験で評価するが、出席や授業態度も加味する。				
出席状況				10	□学生へのメッセージ 実演を交えて質疑応答を多く、双方向形式とする。 実際の画像や動画をパワーポイントを使用して説明します。				
試験等	提出物			—					
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			80					
	平常の授業状況(授業態度)			10					
その他（ ）				—					
合 計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規）					□参考図書・資料・参考ホームページ 随時資料配付				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	リハビリテーションの理念	リハビリテーションとは
2	リハビリテーションの領域と役割	リハビリテーションに関わる専門職
3	リハビリテーションの領域と役割	リハビリテーションチーム
4	リハビリテーションに関する社会資源	社会資源について
5	リハビリテーションに関する社会資源	福祉サービスについて
6	リハビリテーションと福祉用具	福祉用具について
7	リハビリテーションと住居改造・福祉の町づくり	住居の改造について
8	リハビリテーション介護	リハビリテーション介護とは
9	リハビリテーション介護	リハビリテーション介護技術の基本
10	障害別リハビリテーションの実際	脳卒中
11	障害別リハビリテーションの実際	関節リウマチ・大腿骨頸部骨折
12	障害別リハビリテーションの実際	パーキンソン病他
13	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの目標と考え方
14	終末期リハビリテーション	リハビリテーション医療の考え方と課題
15	定期試験	

科目名	介護の基本Ⅱ			担当教員		濱野 厚子		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士および介護支援専門員として介護施設・事業所に20年勤務。施設及び在宅での介護経験をもとに介護福祉士で大切な視点を伝える。						
□位置付け 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。									
□授業の目的 住み慣れた地域で可能な限り生活をしたいと願っている高齢者や障害者に対し、サービス提供方法と多職種連携の必要性を学ぶ。介護の理念を実現するために、倫理・知識・技術を統合し、利用者の生活の視点から「介護の基本」と「生活支援技術」を関連付け、基礎的な力を培い、実践力を高めることを目指す。									
□授業の到達目標 介護を必要としている人やその介護者について理解し、生活能力や意欲を引き出すことの必要性、自立に向けた支援について理解する。生活上の課題の解決のために必要なサービスや地域の社会資源を理解する。多職種連携・地域連携の意味と必要性、その実際について理解する。介護者の安全・健康管理を保障するための知識・技術を活用できるようにする。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				10	授業中はグループワークやディスカッションにも積極的に参加しましょう。教科書だけではなく配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておきましょう。提出物は期限を守ってください。 □学生へのメッセージ 介護を必要とする人を取り巻く環境を理解して、介護福祉士の役割を学び、介護の仕事のやりがいを実感しましょう。				
試験等	提出物			10					
	レポート								
	随時試験			20					
	定期試験			50					
	平常の授業状況(授業態度)			10					
			その他（ ）						
合 計				100%					
□テキスト 最新介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」中央法規					□参考図書・資料・参考ホームページ 「新しい介護」「介護リスクマネジメント」講談社「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護福祉とは①	介護の成り立ち
2	介護福祉とは②	専門職による介護が誕生した社会的な背景
3	介護福祉とは③	介護の本質をとらえる考え方の移り変わり①
4	介護福祉とは④	介護の本質をとらえる考え方の移り変わり②
5	介護福祉とは⑤	介護福祉士の基本的理念とは
6	介護福祉とは⑥	尊厳を考える介護
7	介護福祉とは⑦	自立を考える介護
8	介護福祉とは⑧	尊厳を支える介護とは
9	介護福祉士の役割と機能①	介護福祉士の活動の場と役割
10	介護福祉士の役割と機能②	社会福祉士及び介護福祉士法
11	介護福祉士の役割と機能③	社会福祉士及び介護福祉士法に関する諸規定
12	介護福祉士の役割と機能④	心理状況に応じた介護を考える
13	介護福祉士の役割と機能⑤	介護福祉士の義務規定について
14	介護福祉士の役割と機能⑥	介護福祉士養成カリキュラムの移り変わり
15	定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理
17	介護福祉士の倫理②	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応①
18	介護福祉士の倫理③	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応②
19	介護福祉士を必要とする人の生活を支えるしくみ①	生活を支えるフォーマルサービスとは
20	介護福祉士を必要とする人の生活を支えるしくみ②	生活を支えるインフォーマルサービスとは
21	介護福祉士を必要とする人の生活を支えるしくみ③	地域連携の意義と目的
22	介護福祉士を必要とする人の生活を支えるしくみ④	地域連携に関わる機関の理解と実際
23	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働とは
24	協働する多職種の機能と役割	多職種連携が必要な理由
25	協働する多職種の機能と役割	多職種連携に求められる基本的な知識①
26	協働する多職種の機能と役割	多職種連携に求められる基本的な能力②
27	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能①
28	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能②
29	協働する多職種の機能と役割	多職種連携の実際
30	定期試験	筆記試験

科目名	コミュニケーション技術Ⅰ			担当教員		松田 朗		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、PSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
□位置付け 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。									
□授業の目的 ①介護におけるコミュニケーションの基礎を理解する。 ②介護場面における利用者や家族への援助的コミュニケーション技法を習得する。 ③利用者の特性に応じた援助的コミュニケーション技法を理解する。 ④家族とのパートナーシップ構築の必要性（効果）を理解する。 ⑤介護におけるチームのコミュニケーション技法を習得する。									
□授業の到達目標 ①より効果的な（サービスの質が高まる）支援関係を創るための言動を、具体的に想定できる。 ②身体化の重要性を踏まえ、閉ざされた心に働きかける言動を、具体的に想定できる。 ③コミュニケーション障がいのある者に対して不安・不快・不信感を抱かせない言動を具体的に想定できる。 ④家族とのパートナーシップを築く際に注意することを指摘できる。 ⑤チーム内の連携を促進するための基本的な行動の要点を図示できる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				—	・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。				
試験等	提出物			—	・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。				
	レポート			50	□学生へのメッセージ				
	随時試験			—	・遊び心を大切に、感性を磨きましょう。				
	定期試験			50	・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。				
	平常の授業状況（ ）			—	・一緒に学びを楽しみましょう。				
その他（ ）			—	・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp					
合 計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座 5					「聴く・伝える・共感する技術便利帳」 大谷佳子著				
コミュニケーション技術 第2版 （中央法規）									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護におけるコミュニケーションの基本①	科目の説明・レポートの書き方・評価方法の説明/意義と目的/役割と支援対象への理解/支援関係を構築改善し継続していくための基本的な知識を学びます。
2	介護におけるコミュニケーションの基本②	
3	コミュニケーションの基本技術①	
4	コミュニケーションの基本技術②	ペアワークやグループワークを通して、傾聴・受容・共感といった介護におけるコミュニケーションの基盤となる技術をより確かなレベルに引き上げ/言語・非言語を意図的に効果的に使いこなすための基本的な技術の修得と/支援の対象者の潜在力を引き出す技術の修得を目指します。
5	対象者の特性に応じたコミュニケーション①②③④⑤⑥	コミュニケーション障害への対応の基本を学び/様々なコミュニケーション障害（視覚障害・聴覚障害・構音障害・失語症・認知症・うつ病・抑うつ症状・統合失調症・知的障害・発達障害・高次脳機能障害・重症心身障害など）がある人への基本的な支援方法を学びます。
6		
7		
8		
9		
10		
11	家族とのコミュニケーション①	家族とのパートナーシップを構築し、さらに改善・継続させていくための知識と技術の習得を目指します。
12	家族とのコミュニケーション②	
13	介護におけるチームのコミュニケーション②	意義と目的を理解し、より機能的なチームを創造していくための知識と技術（報告・連絡・相談・記録・会議・情報管理・事例検討等）の習得を目指します。
14	介護におけるチームのコミュニケーション③	
15	期末試験	筆記試験

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ			担当教員		高須 一美		単位数	2																			
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○																			
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○																			
実務経験教員	○	実務経験内容	手話通訳士として、TV通訳、政見通訳、講演会、学校、介護施設等で通訳業務20年以上。現場で役立つ技術を指導していきます。																									
□位置付け 聴覚障害のある人たちのコミュニケーション手段を知ることによって、聴覚障害者への理解を深める。コミュニケーションの方法の一つとして手話の基礎技術を習得する。																												
□授業の目的 聴覚障害とはどのような聴覚なのかを理解し、支援に際して何をどのようにしていくのかを理解する。コミュニケーション方法の一つとして手話の基礎技術を習得する。																												
□授業の到達目標 聴覚障害の方々との様に関わっていけるか、手話を通して考え身に付けていく。現場で生かせる技術を身に付ける。介護の現場で役立つ手話を習得する。																												
□成績評価の方法 <table><tr><td>評価項目</td><td>割合</td></tr><tr><td>出席状況</td><td>10</td></tr><tr><td rowspan="5">試験等</td><td>提出物</td><td>—</td></tr><tr><td>レポート</td><td>—</td></tr><tr><td>随時試験</td><td>—</td></tr><tr><td>定期試験（実技）</td><td>80</td></tr><tr><td>平常の授業状況（授業中実技）</td><td>10</td></tr><tr><td>その他（ ）</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>100%</td></tr></table>				評価項目	割合	出席状況	10	試験等	提出物	—	レポート	—	随時試験	—	定期試験（実技）	80	平常の授業状況（授業中実技）	10	その他（ ）	—	合 計	100%	□成績評価に関するコメント 相手を理解する力、自ら積極的に関わっていく能力を身に付けることを考えます。 手話の基礎技術の習得を評価します。 □学生へのメッセージ まず、出席してください。そして一緒に手を動かし、自分のものにして下さい。授業に出て良かったと思える講義を目指します。					
評価項目	割合																											
出席状況	10																											
試験等	提出物	—																										
	レポート	—																										
	随時試験	—																										
	定期試験（実技）	80																										
	平常の授業状況（授業中実技）	10																										
その他（ ）	—																											
合 計	100%																											
□テキスト おぼえようみんなの手話（全日本ろうあ連盟）					□参考図書・資料・参考ホームページ 「わたしたちの手話 学習辞典」全日本ろうあ連盟																							

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	手話とは 挨拶	手話とは 聴覚障害とは 挨拶を手話で表現
2	名前の表現	学生一人一人の名前の表現 知人の名前を表わしてみる
3	指文字	50音の表現方法
4	数字 聴覚障害	数字の表現方法 DVDを見て聴覚障害を考える
5	時制	曜日の表現
6	時制	現在・過去・未来
7	疑問詞	何・どこ・どちら・誰
8	疑問詞	いくつ・いくら・何故・いつ・どうやって
9	日常会話	日常の場面を設定して会話をする
10	日常会話	〃
11	介護の場で使える手話	介護する場面で使える手話を学ぶ
12	現場で使える手話	介護・施設など現場で使える手話を学ぶ
13	自己紹介	自分の事・友人の事が手話で表現できる様にする
14	まとめ	全体のまとめ
15	定期試験	定期試験

科目名	生活支援技術 I			担当教員		平井 範子		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	中学・高等学校で家庭科の教諭として勤務。高齢者の食事について演習を中心に伝える。						
□位置付け 利用者の心身の状況に応じた食事を通して、QOLの向上が図れる。									
□授業の目的 高齢者や障害者などの利用者にとって、安全でかつ円滑に調理ができるようにするために必要な様々な知識を学ぶ。そのためには、調理の基本、栄養学的知識、病気に対する知識、衛生面に対する知識等、多方面にわたる学習が必要だと思われる。 教室で学んだ知識を実際の調理と結びつけて考えることが大切である。									
□授業の到達目標 ①バランスのとれた献立作成ができるようにする。 ②いくつかの疾病に対する病人食を理解することができる。 ③それぞれの利用者の状態に応じた調理ができる能力を養う。 ④高齢者等が経験してきた行事食や郷土料理についてもある程度理解できる。 ⑤他の家政学関連等の授業とのつながりを持って思考できるようにする。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				10	実習の翌週ごとにレポートを提出します。1つでも提出されていない場合は再試験になりますので注意して下さい。教室での授業や実習中も積極的に取り組んで下さい。定期試験は最後に60分で行います。（持込不可） □学生へのメッセージ 必ず、実習前日にもう一度内容に目を通し、ある程度頭の中でイメージ、手順を固めてくること。実習後にも家でやってみて下さい。少しずつの積み重ねが調理が得意になるポイントです。また、グループ学習ですから楽しく、チームワーク良く、失敗を恐れずにやって下さい。				
試験等	提出物			－					
	レポート			15					
	随時試験			－					
	定期試験			65					
	平常の授業状況(授業態度)			10					
その他（		）		－					
合 計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
・最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I （中央法規） ・新食品成分表 FOODS（東京法令出版）									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	授業の概要	実習に関する諸注意、実習室の見学、次回実習説明
2	献立について	食事摂取基準、料理の組み合わせ
3	実習 1	御飯、清し汁、炒りどり、お浸し
4	基礎	
5	献立作成	食品群別摂取量のめやす、献立の立て方
6	栄養価計算	栄養価計算のやり方、前回レポート提出、次回実習説明
7	実習 2	お粥、鶏すり流し汁、炒り豆腐、ヨーグルトジュース
8	老人介護食	鶏みそ、増粘剤の使用
9	病人食について	老人食、減塩食、糖尿病食、貧血食
10		栄養価計算レポート、前回実習レポート提出
11	実習 3	パン、ポークピッツァソース、ナムル和え
12	減塩食	
13	食品衛生	食中毒
14		前回実習レポート提出
15	定期試験	

科目名	生活支援技術Ⅱ		担当教員		鋤田 香名		単位数	2	
対象学科	介護福祉		学年	1 年	授業形態	演習	法令等指定	○	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	5年	実務経験 内容	高齢・障害・事業18年（施設・在宅）・複合施設経営12年（通所・訪問・学童保育）。相談員10年（障害者基幹相談支援等）地域コミュニティの場を創設し、地域福祉に貢献して参りました。実践を基に必要な学びを教授し、新たな発想をもって専門職として何ができるか共に学びを深めます						
□位置付け 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。 利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。									
□授業の目的 ・尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を身につける。 ・専門職に相応しい生活支援技術をを身につけ、介護実践に活かす。									
□授業の到達目標 ・ICFの視点を活かした生活支援を考え実践できる力を養う ・福祉用具の意義を理解し様々な場面で適した提案及び援助ができる ・応急手当の知識と技術を身につける ・災害時における生活支援について考え、具体的な支援策を提示できる									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント ・毎回の授業でレポートを作成します。このレポート提出は出席点が含まれます。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします				
出席状況									
試験等	提出物								
	レポート			60					
	随時試験								
	定期試験			40					
	平常の授業状況(授業態度)								
その他（実技試験）									
合 計				100%	□学生へのメッセージ ・学校での専門職としての学びが、皆様の卒後の生活に、世の中に活きる学びとなるように、共に学習を進めて行きたいと思えます。毎回の授業が皆様と私の有意義な学びの時間となりますように！				
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（中央法規）					□参考図書・資料・参考ホームページ 授業の中で随時お知らせします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	講師紹介／授業内容解説／評価方法解説
2	生活支援の基本的な考え方	生活支援のポイント、ライフサイクルと生活の豊かさを学ぶ。
3	生活支援と介護過程①	ICFの視点に基づく生活支援について学びます。
4	生活支援と介護過程②	利用者を理解するためのICFの視点について学びます。
5	生活支援とチームアプローチ	チームアプローチの重要性を学びます。
6	まとめのテスト／振り返り	1回目から5回目までの授業の内容を整理します。
7	生活支援における福祉用具の重要性	福祉用具を使用する意義について学びます。
8	福祉用具の種類	福祉用具の分類と福祉用具に関する制度について学びます。
9	適切な福祉用具を選ぶための視点	福祉用具の選定に必要な視点と知識を学びます。
10	まとめのテスト／振り返り	7回目から9回目の授業の内容を整理します。
11	想定される事故と予防の視点	想定される事故と予防の視点を学びます
12	応急手当の実際	代表的な応急手当の実際
13	被災地で活動する際の心構え	生活支援の重要性、支援継続可否の判断等について学びます。
14	災害時における生活支援	被災地での活動場所、ハザードマップ等について学びます。
15	定期試験	筆記試験

科目名	生活支援技術Ⅲ			担当教員		中嶋 純也		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設・事業所に20年勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護実践で大切な根拠ある介護方法についての思考過程の展開について講義する。						
□位置付け 「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、残存能力を活かし潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得するための科目。									
□授業の目的 ・介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 ・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。									
□授業の到達目標 ・あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 ・介護実践の根拠を理解する。 ・介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。 ・利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 ・利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				40%	出席状況、提出物、定期（筆記）試験、授業態度、実技試験が評価対象になります。				
試験等	提出物			10%	□学生へのメッセージ 身だしなみ等を整えてください。 整っていない場合は見学になります。				
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			10%					
	平常の授業状況(授業態度)			10%					
その他（実技試験）			30%						
合 計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版（中央法規） 最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版（中央法規）					□参考図書・資料・参考ホームページ 担当教員により随時お知らせします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	基本となる介護技術とは何か	生活支援技術とは何か 介護の専門性とは何か
2	移動の介護	ボディメカニクスとは何か
3	生活環境の整備	ベッド周囲の環境整備、ベッドメイキング
4	〃	ベッドメイキング
5	移動の介護	移動の意義・目的 福祉用具の活用
6	〃	福祉用具の活用、移動における生活支援技術（ベッド上の移動）
7	〃	移動における生活支援技術（ベッド上の移動）
8	〃	移動における生活支援技術（移乗介助）
9	〃	〃
10	身じたくの介護	身じたくの意義・目的
11	〃	衣類の着脱の介護
12	〃	衣類の着脱の介護、整容（洗顔、ドライヤー）
13	食事の介護	食事の意義・目的 食事における生活支援技術
14	〃	食事における生活支援技術
15	実技試験	技術の確認

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	定期試験	筆記試験
17	入浴・清潔保持の介護	清潔保持の意義と目的、入浴の意義と目的
18	〃	入浴における生活支援技術
19	〃	〃
20	〃	振り返り
21	排泄の介護	排泄における生活支援技術の意義・目的、福祉用具の活用
22	〃	排泄における生活支援技術（トイレ誘導・ポータブルトイレ誘導）
23	〃	排泄における生活支援技術（尿器・便器）
24	〃	排泄における生活支援技術（オムツ）
25	〃	排泄における生活支援技術（オムツ）、振り返り
26	身じたくの介護	口腔ケアの意義と目的
27	〃	口腔ケアにおける生活支援技術
28	実技試験	技術の確認
29	実技試験	技術の確認
30	定期試験	筆記試験

科目名	生活支援技術Ⅴ			担当教員		倉若 美咲樹		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
□位置付け									
利用者の心身の状態や生活を理解し、自立支援・介護予防の観点から家事支援の在り方について理解する。									
□授業の目的									
介護を必要とする人に対する基本的な生活支援の技術について学ぶとともに、そのために必要な基礎的な知識を習得することを目的とする。									
□授業の到達目標									
・幅広く生活の支援ができるように、家事（室内環境の整備、調理、洗濯、裁縫等）の介助に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・利用者の心身の状態や生活を理解し、自立支援・介護予防の観点から家事支援のあり方について理解できる。 ・利用者がその人らしい生活を継続していくには、どのような支援が必要なのかを考えることができる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				10	出席状況や課題へ取り組み方も評価の対象となります。 レポートは、期日を守り、必ず提出するようにしてください。				
試験等	提出物			－	定期試験は、対面実施の場合、持ち込み不可です。遠隔実施の場合は、別途連絡します。				
	作文			－					
	随時試験			－					
	定期試験			60	□学生へのメッセージ				
	平常の授業状況（ ）			－	テキストと配布プリントを中心に進めますが、大切だと思う事柄はメモを取るようにしましょう。				
			その他（レポート）		30	日常生活に直結する内容ですので、自分自身の生活についても考える機会にしてほしいと思います。			
合 計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
新・介護福祉士養成講座第6 生活支援技術Ⅰ （中央法規） 新食品成分表 F O O D S （東京法令出版）					随時紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	家庭生活の理解	高齢者を中心とする家庭生活の営みと生活設計
2	居住環境の整備	住宅各所の空間構成
3	居住環境の整備と家事支援①	安全で快適な室内環境の整備
4	居住環境の整備と家事支援②	安全で快適な室内環境の整備、掃除・ごみ捨ての介助
5	食生活の基本知識①	栄養の理解、消化と吸収
6	食生活の基本知識②	食品の種類と調理性、食材の選び方
7	高齢者の身体機能と栄養	高齢者の身体の変化と栄養・食生活の特徴
8	高齢者の食事と調理	高齢者の食事と調理、行事食の意義
9	疾患と食事	生活習慣病と食生活、食事による予防と改善
10	在宅介護における調理支援	調理支援の意義と進め方
11	被服生活の基本知識	被服の機能、素材と性質
12	被服生活と家事支援①	被服の洗濯と保管
13	被服生活と家事支援②	裁縫（衣類の補修）
14	家庭経営・家計の管理	家庭管理とその支援
15	定期試験	

科目名	生活支援技術Ⅵ		担当教員		長谷川 恭太		単位数	2	
対象学科	介護福祉科			学年	1 年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	授業期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として臨床 2 年(民生病棟、内科病棟)、介護老人保健施設 16 年勤務。実務者研修医療的ケア実習講師として 3 年, 応急手当指導員として 6 年。経験をもとに介護に必要な視点や知識を伝える。						
□位置付け 障害や疾病に関する基礎的知識の理解や状態変化の把握を行い、生活上の困難に対しどのようにかわるか学ぶ。特に障害に伴う基礎疾患として多い内部障害や脳血管障害、パーキンソン病、高次脳機能障害などがある方々の生活支援技術について学ぶ。									
□授業の目的 ・障害や疾病について基本的な知識を理解することで、介護福祉士として生活を支援する方法を理解する。 ・多職種連携の中での介護福祉士の担う役割を理解し、利用者の生活を支援する。									
□授業の到達目標 ①多く見られる障害、疾患についての基本的な知識や観察のポイントを理解することができる。 ②基本的な知識や根拠に基づき、利用者個々に合わせた介護を考えることができる。 ③基本的な知識や根拠に基づき、利用者個々に合わせた介護を実践することができる。 ④多職種連携の中で、介護福祉士としての役割を理解できる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				30	出席状況・レポート・定期試験・授業態度で評価していきます。				
試験等	提出物			-	□学生へのメッセージ 講義の後に演習を行います。演習に適した服装(実習着など)を持参ください。 事前にテキストを読んで授業に臨んでください。				
	レポート			10					
	随時試験			-					
	定期試験			50					
	平常の授業状況（授業態度）			10					
その他（		）		-					
合 計				100%					
□テキスト 最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ (中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ 随時紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション、四体不自由に応じた介護	四体不自由の基本的理解と生活支援について
2	脊髄損傷者の介護	疾患の理解と演習 演習
3	心機能障害に応じた介護	主な心疾患の理解と生活援助 緊急時の対応 演習
4	呼吸器機能障害に応じた介護	主な呼吸器疾患の理解と生活援助 緊急時の対応 演習
5	肝臓・腎臓機能障害に応じた介護	主な肝臓・腎臓疾患の理解と生活援助
6	膀胱、泌尿器障害に応じた介護	疾患の理解、ストーマや膀胱内留置カテーテル等説明 演習
7	直腸機能障害に応じた介護	主な疾患の理解、ストーマケアについて 演習
8	小腸機能に応じた介護	同上 演習
9	脳血管障害に応じた介護	脳血管障害の理解と生活援助 演習
10	同上	同上 演習
11	高次脳機能障害に応じた介護	高次脳機能障害の理解と生活援助 演習
12	同上	同上 演習
13	パーキンソン病に応じた介護	パーキンソン病の理解と生活援助 演習
14	悪性関節リウマチに応じた介護	悪性関節リウマチの理解と生活援助
15	定期試験	筆記

科目名	介護過程Ⅰ			担当教員		中嶋 純也		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設・事業所に20年勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護実践で大切な根拠ある介護方法についての思考過程の展開について講義する。						
□位置付け 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。									
□授業の目的 ①介護を必要とする人の生活をどのように支援しなければならないのか展開方法を理解する。 ②利用者を知るための情報を、様々な項目・方法で引き出すことの手法を習得する。 ③利用者を支えるためのチームによるケアの適切な支援の提供について学ぶ。									
□授業の到達目標 ①介護過程の展開が利用者の個別ケア実践になぜ必要なのか理解できる。 ②利用者の全体像を把握する観察力（客観的情報・主観的情報）を身につけることができる。 ③利用者にかかわる介護福祉職と関係職種が共通の目標をもってケアを実践する。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント 出席状況、提出物、定期試験、授業態度すべて評価に含まれます。特に提出物は提出期限、授業態度はルールを厳守してください。評価の詳細は、初回の授業にて説明します。				
出席状況				30	□学生へのメッセージ この授業は、それぞれの思い、感じたことを言葉にして、お互いの情報を共有するところから始まります。ぜひ、全員参加をしながら授業に取り組んでいきましょう。				
試験等	提出物			40					
	レポート								
	随時試験								
	定期試験			20					
	平常の授業状況（ ）			10					
その他（ ）									
合 計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座 9 第2版 介護過程（中央法規）					□参考図書・資料・参考ホームページ 担当教員により随時ご紹介いたします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	シラバス説明・これからの授業の進め方など
2	介護過程とは	介護過程のイメージ作り①（事例検討）
3		介護過程のイメージ作り②（事例検討）
4		介護過程の意義・目的①
5		介護過程の意義・目的②（事例検討）
6		介護過程の全体像①
7		介護過程の全体像②（事例検討）
8	生活支援における介護過程の必要性	生活支援における介護過程の意義①
9		生活支援における介護過程の意義②（事例検討）
10	介護過程の理解	アセスメントの思考の方法①
11		アセスメントの思考の方法②（事例検討）
12		アセスメントの視点の提示①
13		アセスメントの視点の提示②（事例検討）
14		介護過程の展開（アセスメントの整理）
15	定期試験	レポート

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護過程の展開	介護過程のプロセス
17	アセスメント	情報収集①
18		情報収集②（事例検討）
19		情報収集③（事例検討）
20		情報収集④（事例検討）
21		情報収集⑤（事例検討）
22		時代背景を調べる①
23		時代背景を調べる②
24		時代背景を調べる③
25	ケーススタディ	ケーススタディ発表会①（2年生の研究発表会参加）
26		ケーススタディ発表会②（2年生の研究発表会参加）
27	アセスメント	解釈・関連付け・統合化①
28		解釈・関連付け・統合化②（事例検討）
29		解釈・関連付け・統合化③（事例検討）
30	定期試験	レポート

科目名	介護総合演習Ⅰ			担当教員		松田・中嶋		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						
□位置付け 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。質の高い介護実践やエビデンスの構築に繋がる実践研究の意義とその方法を理解する。									
□授業の目的 - 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 - 多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。									
□授業の到達目標 - 介護実習の重要性について理解できる。 - 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。 - 介護実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ实际的に理解できるようになる。 - 習得した学内諸学習を応用し、実践的な技術等を身につけられる。 - 介護福祉士としての自覚ができ、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応力を取得できる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				50	定期試験としての筆記や実技の試験はありませんが、出席状況、提出物、レポート、授業態度で評価されます。提出物、レポート等は担当教員からの説明をよく聞き指示に従ってください。				
試験等	提出物			30					
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			20					
	平常の授業状況(授業態度)			—					
その他（ ）			—	□学生へのメッセージ 介護総合演習は介護実習が充実した意義のあるものにするための授業です。					
合 計			100%						
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
・最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版（中央法規） ・介護実習の手引き					担当教員より随時ご紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護福祉士に求められるもの	介護福祉士に求められる能力
2	介護実習の枠組みと全体像	介護実習とは何か
3	介護実習Ⅰオリエンテーション	介護実習Ⅰの目的・意義
4	〃	介護実習Ⅰの目標と個人の目標
5	〃	介護実習Ⅰに関連した事前学習
6	施設・事業所見学	利用者の日常生活とは何か
7	施設・事業所見学	〃
8	記録の意義・目的	実習記録(日誌)の目的と必要性
9	〃	〃
10	介護実習Ⅰオリエンテーション	実習の心構え 介護実習Ⅲの進め方、取り組み方
11	〃	実習巡回教員による個別指導
12	介護実習Ⅰ 帰校日	実習巡回教員による個別指導
13	〃	〃
14	介護実習Ⅰの報告	介護実習Ⅰで得た学びの共有
15	定期試験	レポート

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護実習Ⅰの振り返り	介護実習Ⅰに関連した事後学習
17	介護実習Ⅱオリエンテーション	介護実習Ⅱの目的・意義 介護実習Ⅱに関連した事前学習
18	〃	介護実習Ⅱの目標と個人の目標
19	介護実習Ⅱにおける介護過程の展開	アセスメントの意義・視点とは何か
20	〃	〃
21	記録の意義・目的	介護実習Ⅱにおける実習記録（日誌）の目的と必要性
22	〃	〃
23	介護実習Ⅱオリエンテーション	実習の心構え 介護実習Ⅲの進め方、取り組み方
24	〃	実習巡回教員による個別指導
25	介護実習Ⅱ 帰校日	実習巡回教員による個別指導
26	〃	〃
27	〃	〃
28	〃	〃
29	介護実習Ⅱの報告	介護実習Ⅱで得た学びの共有
30	定期試験	レポート

科目名	介護実習Ⅰ			担当教員		松田・中嶋		単位数	3
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						
□位置付け 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。									
□授業の目的 実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。 介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。									
□授業の到達目標 ・コミュニケーションをとり、利用者および職員と人間関係を築くことができる。 ・利用者の生活に関心を持ち、生活環境や1日の過ごし方を知る。 ・安全と安楽に留意し、基本的介護技術を体験する（見学を含む）。 ・実習生の視点から観察、記録、報告ができる。自分の体験を、記録を通し考察することができる。 ・実習施設の概要、実習施設の特性を知る。介護職の役割と業務内容を理解する。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				60	・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。				
試験等	提出物			—	・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。				
	レポート			—	□学生へのメッセージ				
	随時試験			—	介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。				
	定期試験			—	ルールを守り、欠席しないよう調整してください。実習期間中は巡回担当教員が定期的に指導を行います。何でも遠慮なく相談してください。				
	平常の授業状況（実習の状況）			40					
その他（				—					
合 計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
・最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版（中央法規） ・介護実習の手引き									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
	介護実習 I	オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される）
	（12日間）	コミュニケーション
		生活支援技術（身じたくの介護）
		〃（移動の介護）
		〃（食事の介護）
		〃（入浴・清潔保持の介護）
		〃（排泄の介護）
		〃（睡眠の介護）
		レクリエーション
		※コミュニケーション、生活支援技術等は利用者とかかわりや介護の実践を通して繰り返し学んでいく。
		※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。
		24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく早番・遅番などの変則勤務（実習）を体験することがある。
	↓	

科目名	介護実習Ⅱ			担当教員		松田・中嶋		単位数	5																																										
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	実習	法令等指定	○																																										
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○																																										
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。																																																
□位置付け 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。																																																			
□授業の目的 実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。 介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。																																																			
□授業の到達目標 ・コミュニケーション等により利用者が気持ちや考えを表現できるようなかかわりができる。 ・利用者の生活背景、心身の状況など、全体像を把握する。 ・安全と安楽に留意し、基本的介護技術を体験する。利用者の状況に応じた介護技術を工夫できる。 ・利用者の個別性について観察、記録、報告ができる。介護過程展開の基礎を学ぶ。 ・実習施設の概要を踏まえ、施設の役割と機能を理解できる。 ・関係職種の役割を理解し、連携のあり方を学ぶ。																																																			
□成績評価の方法 <table><tr><td>評価項目</td><td>割合</td></tr><tr><td>出席状況</td><td>60</td></tr><tr><td rowspan="5">試験等</td><td>提出物</td><td>－</td></tr><tr><td>レポート</td><td>－</td></tr><tr><td>随時試験</td><td>－</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>－</td></tr><tr><td>平常の授業状況（実習の状況）</td><td>40</td></tr><tr><td>その他（</td><td>－</td></tr><tr><td>合 計</td><td>100%</td></tr></table> □成績評価に関するコメント ・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。 ・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。 □学生へのメッセージ 介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。実習期間中は巡回担当教員が定期的に指導を行います。何でも遠慮なく相談してください。										評価項目	割合	出席状況	60	試験等	提出物	－	レポート	－	随時試験	－	定期試験	－	平常の授業状況（実習の状況）	40	その他（	－	合 計	100%																							
評価項目	割合																																																		
出席状況	60																																																		
試験等	提出物	－																																																	
	レポート	－																																																	
	随時試験	－																																																	
	定期試験	－																																																	
	平常の授業状況（実習の状況）	40																																																	
その他（	－																																																		
合 計	100%																																																		
□テキスト ・最新 介護福祉士養成講座10 - 介護総合演習・介護実習 第2版（中央法規） ・介護実習の手引き □参考図書・資料・参考ホームページ																																																			
□授業計画 <table><tr><th>回数</th><th>テーマ</th><th>授業の内容、進め方</th></tr><tr><td></td><td>介護実習Ⅱ</td><td>オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される）</td></tr><tr><td></td><td>（19日間）</td><td>コミュニケーション</td></tr><tr><td></td><td></td><td>生活支援技術（身じたくの介護）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>〃（移動の介護）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>〃（食事の介護）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>〃（入浴・清潔保持の介護）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>〃（排泄の介護）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>〃（睡眠の介護）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>〃（看取りの介護）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>レクリエーション</td></tr><tr><td></td><td></td><td>介護過程展開の基礎（1人の利用者の全体像をとらえる、ニーズが把握できる）</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。</td></tr><tr><td></td><td></td><td>24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく遅番・早番・夜勤などの変則勤務（実習）を体験することがある。</td></tr></table>										回数	テーマ	授業の内容、進め方		介護実習Ⅱ	オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される）		（19日間）	コミュニケーション			生活支援技術（身じたくの介護）			〃（移動の介護）			〃（食事の介護）			〃（入浴・清潔保持の介護）			〃（排泄の介護）			〃（睡眠の介護）			〃（看取りの介護）			レクリエーション			介護過程展開の基礎（1人の利用者の全体像をとらえる、ニーズが把握できる）			※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。			24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく遅番・早番・夜勤などの変則勤務（実習）を体験することがある。
回数	テーマ	授業の内容、進め方																																																	
	介護実習Ⅱ	オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される）																																																	
	（19日間）	コミュニケーション																																																	
		生活支援技術（身じたくの介護）																																																	
		〃（移動の介護）																																																	
		〃（食事の介護）																																																	
		〃（入浴・清潔保持の介護）																																																	
		〃（排泄の介護）																																																	
		〃（睡眠の介護）																																																	
		〃（看取りの介護）																																																	
		レクリエーション																																																	
		介護過程展開の基礎（1人の利用者の全体像をとらえる、ニーズが把握できる）																																																	
		※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。																																																	
		24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく遅番・早番・夜勤などの変則勤務（実習）を体験することがある。																																																	

科目名	こころとからだのしくみⅠ			担当教員		飯田 美里		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として、がん専門病院（消化器、呼吸器、乳腺、整形外科病棟、術後回復室等）に7年、訪問看護7年、放課後等デイサービス（重症心身障がい児のケア）4年勤務。介護に必要なこころとからだのしくみについて指導する。						
□位置付け 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。									
□授業の目的 この科目では、心と体の両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。また、残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出す。									
□授業の到達目標 1. 人間の基本的な心と体のしくみについて理解する。 2. 身じたく及び排泄に関連した心と体のしくみについて理解する。 3. 身じたく及び排泄に関連した心と体の変化について理解し、利用者の状態の変化に気づくことができるようになる。また、医療職との連携について理解する。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント ・授業態度、定期試験で評価します。				
出席状況				—	□学生へのメッセージ ・テキストを中心に、参考資料プリントや人体模型を使い授業を進めていきます。 ・専門用語やわからない言葉は調べておきましょう。 ・復習のためのプリントでポイントを押さえましょう。				
試験等	提出物			—					
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			90					
	平常の授業状況(授業態度)			10					
その他（									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	「健康」とは何か	健康の定義 「健康」づくり 健康観 病気概念
2	からだのしくみを理解する	からだの部位の役割 / 細胞・遺伝 身体各部の名称 内臓の名称
3	〃	からだの部位の役割 / 脳・神経
4	〃	からだの部位の役割 / 感覚器（視覚器・平衡聴覚器）
5	〃	からだの部位の役割 / 感覚器（嗅覚器・味覚器・皮膚）
6	〃	からだの部位の役割 / 呼吸器
7	〃	からだの部位の役割 / 循環器
8	〃	からだの部位の役割 / 消化器（消化管）
9	〃	からだの部位の役割 / 消化器（消化腺）
10	〃	からだの部位の役割 / 泌尿器
11	〃	からだの部位の役割 / 骨・関節・筋肉・神経系
12	〃	からだの部位の役割 / 生殖器
13	〃	からだの部位の役割 / 内分泌
14	〃	からだの部位の役割 / 血液・体液・リンパ・心身の調和・薬の知識
15	定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	こころのしくみを理解する	人間の欲求とは 自己実現と尊厳
17	〃	こころのしくみの基礎
18	〃	〃
19	身じたくに関連したしくみ	身じたくのしくみ
20	〃	〃
21	〃	〃
22	〃	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
23	〃	〃
24	〃	身じたくにおける観察のポイントと対応 医療職との連携
25	排泄に関連したしくみ	尿排出のしくみ
26	〃	心身の機能低下が排尿に及ぼす影響
27	〃	便排出のしくみ
28	〃	心身の機能低下が排便に及ぼす影響
29	〃	排泄における観察のポイントと対応 医療職との連携
30	定期試験	筆記試験

科目名	障害の理解			担当教員		藍原 義勝		単位数	4																
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○																
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○																
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として医療法人が経営する在宅サービスに約 2 0 年間勤務。 患者・利用者の相談援助に従事する傍ら、地域づくりに 1 0 年以上活動 している。実例・経験をもとに講義を行う。																						
□位置付け 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地 域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解する。																									
□授業の目的 障害について様々な角度から学ぶ。障害の概念を基本として、障害のある人の状態像や心理について学び 介護福祉士として、障害のある人たちの地域生活を支援するために必要とされる基礎的知識をそう総合的に 修得する																									
□授業の到達目標 ① 障害の概念について学ぶ。 ② 障害のある人の状態像と心理について学ぶ。 ③ 障害のある人への介護上の留意点について学ぶ。 ④ 家族への支援と連携及び協働について学ぶ。																									
□成績評価の方法 <table><tr><td>出席状況</td><td>割合</td></tr><tr><td></td><td>20</td></tr><tr><td rowspan="5">試験等</td><td>提出物</td></tr><tr><td>レポート</td></tr><tr><td>随時試験</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>80</td></tr><tr><td>平常の授業状況(授業態度)</td></tr><tr><td colspan="2">その他 ()</td></tr><tr><td colspan="2">合 計</td><td>100%</td></tr></table> □成績評価に関するコメント ・出席状況を評価項目に設定します。 ・また、定期試験は、授業内容から出題しますので、普段の授業 が大事となります。 □学生へのメッセージ ・テキストに加えて、動画を活用するなど、興味深く、イメージ がわくように工夫をしていきたい。介護福祉士として、様々な 障害の特性を理解して支援できるように一緒に学びましょう。										出席状況	割合		20	試験等	提出物	レポート	随時試験	定期試験	80	平常の授業状況(授業態度)	その他 ()		合 計		100%
出席状況	割合																								
	20																								
試験等	提出物																								
	レポート																								
	随時試験																								
	定期試験	80																							
	平常の授業状況(授業態度)																								
その他 ()																									
合 計		100%																							
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解 (中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ 厚生労働省ホームページ、WAM NET等																				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	障害の概念とは	障害の概念について学ぶ
2	障害者福祉の基本理念について	障害者福祉の基本理念について学び理解する
3	視覚障害について	視覚障害の特性と支援方法について学ぶ
4	聴覚障害について	聴覚障害の特性と支援方法について学ぶ
5	盲聾（もうろう）、重複障害について	盲聾（もうろう）、重複障害の特性と支援方法について学ぶ
6	身体障害について①	視覚障害等、肢体不自由の特性と支援方法について学ぶ
7	身体障害について②	胸椎損傷、頸椎損傷、脳性麻痺等の特性と支援方法について学ぶ
8	身体障害について③	福祉用具、老人性難聴、失語症等について学ぶ
9	内部障害について①	内部障害の特性と支援方法について学ぶ①
10	内部障害について②	内部障害の特性と支援方法について学ぶ②
11	精神障害について	精神障害の種類に触れて、各種の特性と支援方法について学ぶ
12	高次脳機能障害等について	高次脳機能障害等について学ぶ
回数		
13	知的障害について①	知的障害の特性と支援方法について学ぶ①
14	知的障害について②	知的障害の特性と支援方法について学ぶ②
15	発達障害について①	発達障害の特性と支援方法について学ぶ①
16	発達障害について②	発達障害の特性と支援方法について学ぶ②
17	難病について①	難病障害の特性と支援方法について学ぶ①
18	難病について②	難病障害の特性と支援方法について学ぶ②

19	障害のある人の心理①	障害のある人の心理について学ぶ①
20	障害のある人の心理②	障害のある人の心理について学ぶ②
21	障害に伴う機能の変化と日常生活への影響①	障害に伴う機能の変化と日常生活への影響を学ぶ①
22	障害に伴う機能の変化と日常生活への影響②	障害に伴う機能の変化と日常生活への影響を学ぶ②
23	地域におけるサポート体制①	各種サポート体制について学ぶ①
24	地域におけるサポート体制②	各種サポート体制について学ぶ②
25	地域におけるサポート体制③	各種サポート体制について学ぶ③
26	これまでの振り返り①	過去の復習①
27	これまでの振り返り②	過去の復習②
28	家族への支援	家族への支援方法と留意点について学ぶ
29	チームアプローチ	チームアプローチの重要性について学ぶ
30	定期試験	試験を受ける

科目名	医療的ケアⅠ			担当教員		岩上 由紀子		単位数	5
対象学科	介護福祉科			学年	1 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として医療機関・保育園・訪問看護事業所に28年勤務。病院や在宅看護等での実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
□位置付け 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。									
□授業の目的 1 医療的ケア実施の基礎を学ぶ 2 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順を理解し実施できる 3 経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解し実施できる									
□授業の到達目標 ・個人の尊厳と自立について理解し、利用者の尊厳を守り、自立を助ける医療的ケアの実践ができる。 ・保健医療に関する主な制度、介護保険に関する制度、及びその他関連する制度を説明できる。 ・安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性を説明できる。 ・状況に応じた感染予防法を説明できる。 ・健康時・急変時の状態と対応、報告について説明できる。 ・呼吸のしくみとはたらきを理解し、喀痰吸引の必要性和留意点を説明できる。 ・消化器系のしくみとはたらきを理解し、経管栄養の必要性和留意点を説明できる。 ・喀痰吸引に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる。 ・実施後の利用者の状態を観察し、報告ができる。 ・経管栄養に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる。 ・実施後の利用者の状態を観察し、報告ができる。 ・心肺蘇生の必要性が判断でき、実施できる。 ・A E Dの基本操作ができる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント ・授業態度、演習、グループワークへの取り組み、調べ学習、課題の提出、定期試験すべて重要です。 ・医療的ケアⅠの単位認定がされなければ医療的ケアⅡの履修は認めません。 ・出席前提の科目です。評価項目には入れません。欠席した場合は補習になりますのでご注意ください。 □学生へのメッセージ 医療的ケアは、基礎的な知識が必要です。また、操作を間違うと命に関わるため、緊張感を持ち取り組んでください。演習の際は、身だしなみ等を整えてください。整っていない場合は、見学となることがあります。				
出席状況				－					
試験等	提出物			－					
	レポート			－					
	随時試験			10					
	定期試験			90					
	平常の授業状況（ ）			－					
その他（ ）				－					
合 計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規） 第2版					適宜紹介します				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	医療的ケア実施の基礎	医療的ケアの意義
2	人間と社会	個人の尊厳と自立 医療の倫理 利用者や家族の気持ちの理解
3	保健医療制度とチーム医療	保健医療に関する制度 医行為に関する法律
4	保健医療制度とチーム医療	チーム医療と介護職員との連携
5	安全な療養生活	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
6	安全な療養生活	救急蘇生が必要なとき
7	安全な療養生活	救急蘇生法の手順と留意点
8	清潔保持と感染予防	感染予防 職員の感染予防【演習】
9	清潔保持と感染予防	療養環境の清潔・消毒法 滅菌と消毒
10	健康状態の把握	身体・精神の健康 平常状態について
11	健康状態の把握	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）
12	健康状態の把握	身体・精神の健康 健康状態と知る項目 健康な状態
13	健康状態の把握	身体・精神の健康 健康状態と知る項目（バイタルサインなど）【演習】
14	健康状態の把握	急変状態について
15	定期試験	

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸のしくみとはたらき 喀痰吸引
17	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	子どもの吸引と喀痰吸引にともなう感染予防
18	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引の必要物品と消毒法
19	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	利用者の状態観察の注意点
20	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引前の利用者への説明
21	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引の実施手順の流れ ポイントと留意点
22	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養の種類としくみ
23	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養で使用する栄養剤
24	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養実施の報告
25	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	子どもの経管栄養における留意点
26	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養の感染予防策
27	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	経管栄養により生じる危険
28	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	急変・事故発生時の対応と再発防止
29	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の必要物品
30	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養実施の観察ポイント
31	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の実施
32	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養時に起こるトラブルと対応例
33	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養実施の報告
34	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養	喀痰吸引の実施手順 【演習】
35	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養	喀痰吸引の実施手順 【演習】
36	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養	経管栄養の実施手順 【演習】
37	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養	経管栄養の実施手順 【演習】
38	定期試験	

科目名	介護福祉ゼミⅠ			担当教員		松田 朗		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	1 年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、PSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
□位置付け 読む書く聞く発表する学習を通して文章力や読解力、表現力を身につけ、わかりやすい正しい記録ができる。 また自己学習の仕方を身につける。									
□授業の目的 ①介護福祉士として「共有」「協働」「創造」「最適解思考」ができるようになるための基盤となる、学び方と心構えを修得する。 ②相手に伝わる表現力の習得を目指す。 ③介護福祉士として、健康で生き生きと働き続けるための心構えをつくります。									
□授業の到達目標 ①意図的に「よく観る」「よく聴く」「分かち合う」「楽しむ」ことができる。 ②伝えたいことを分りやすく伝えることができる。 ③役割を体現する（演じる）ことができる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント ・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。				
出席状況				－	□学生へのメッセージ ・遊び心を大切に、感性を磨きましょう。 ・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。 ・一緒に学びを楽しみましょう。 ・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp				
試験等	提出物			－					
	レポート			50					
	随時試験			－					
	定期試験			50					
	平常の授業状況(授業態度)			－					
その他（									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	講師紹介／授業内容解説/評価方法解説／「安心」をつくる
2	「学ぶ」	「誤解語を減らす」「対象を明らかにする」「楽しむ」ことにチャレンジ
3	「直感」「五感」「第六感」	「よく観る」「よく聴く」「分かち合う」「楽しむ」ことにチャレンジ
4	「想像する」「創造する」	「連想する」「表現する」ことにチャレンジ
5	「伝える」	「伝えかたを色々と試す」「最適を決める」ことにチャレンジ
6	「調べる」	「情報を集める」「確かめる」ことにチャレンジ
7	「デモをつくる」	「対象を明らかにする」「対象を共有する」ことにチャレンジ
8	「協力する」	「グループワーク」「チームワーク」にチャレンジ
9	「発表する」	「手分けをしてつくる」「発表する」ことにチャレンジ
10	「緊張する」	「緊張と仲良くなる」ことにチャレンジ
11	「役割を体現する」	「キャラクターをつくる」「ストーリーをつくる」ことにチャレンジ
12	「関係性を体現する」	「シナリオ（ナラティブ）をつくる」「体現する」ことにチャレンジ
13	「やり切る」	「やり切る」ことにチャレンジ
14	「振り返る」	「学ぶことを楽しむ」ためのコツ
15	期末試験	レポート提出

介 護 福 祉 科 2 年生

2021年度生 介護福祉科カリキュラム

科目区分		領域	教育内容	科目名	授業形態	1 年次		2 年次		合計		介護福祉士受験資格	
履修方法	科目内容					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数		
登録指定科目	基礎科目	人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	講義	2	30			2	30	○	
			人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	2	30			2	30	○	
				人間関係とコミュニケーションⅡ	講義	2	30			2	30	○	
			社会の理解	社会の理解Ⅰ	講義	4	60			4	60	○	
				社会の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○	
				日本文化論	講義	2	30			2	30	○	
				現代社会論	講義	2	30			2	30	○	
	専門科目	介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	講義	2	30			2	30	○	
				介護の基本Ⅱ	講義	4	60			4	60	○	
				介護の基本Ⅲ	講義			2	30	2	30	○	
				介護の基本Ⅳ	講義			3	45	3	45	○	
				介護の基本Ⅴ	講義			2	30	2	30	○	
			コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	講義	2	30			2	30	○	
				コミュニケーション技術Ⅱ	講義	2	30			2	30	○	
			生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	演習	2	30			2	30	○	
				生活支援技術Ⅱ	演習	2	30			2	30	○	
				生活支援技術Ⅲ	演習	4	60			4	60	○	
				生活支援技術Ⅳ	演習			4	60	4	60	○	
				生活支援技術Ⅴ	演習	2	30			2	30	○	
				生活支援技術Ⅵ	演習	2	30			2	30	○	
				生活支援技術Ⅶ	演習			4	60	4	60	○	
			介護過程	介護過程Ⅰ	演習	4	60			4	60	○	
				介護過程Ⅱ	演習			4	60	4	60	○	
				介護過程Ⅲ	演習			2	30	2	30	○	
			介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	演習	4	60			4	60	○	
				介護総合演習Ⅱ	演習			4	60	4	60	○	
			介護実習	介護実習Ⅰ	実習	3	90			3	90	○	
				介護実習Ⅱ	実習	5	150			5	150	○	
				介護実習Ⅲ	実習			6	180	6	180	○	
				介護実習Ⅳ	実習			1	30	1	30	○	
			こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	講義	4	60			4	60	○
					こころとからだのしくみⅡ	講義			4	60	4	60	○
				障害の理解	障害の理解	講義	4	60			4	60	○
				発達と老化の理解	発達と老化の理解Ⅰ	講義			2	30	2	30	○
					発達と老化の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○
				認知症の理解	認知症の理解	講義			4	60	4	60	○
				医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	5	75			5	75
	医療的ケアⅡ	演習					1	15	1	15	○		
	科目連			介護福祉ゼミⅠ	演習	2	30			2	30		
				介護福祉ゼミⅡ	演習			2	30	2	30		
				介護福祉事務	講義			2	30	2	30		
合 計						67	1,125	51	870	118	1,995		

※介護福祉科の卒業には、修業年限以上在学し、介護福祉士資格取得に必要な全教科の単位を修得し、かつ1700時間相当の単位数の修得が必要

科目名	介護の基本Ⅲ			担当教員		松田 朗		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、PSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
□位置付け ICFに基づくアセスメントを理解し、個々の状態に応じた自立支援をするための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。 介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全について理解する。									
□授業の目的 ①ICFに基づいた自立支援と介護予防を実践するための基盤をつくる。 ②生きがいのある生活を営むための支援として、レクリエーションを提案できる。									
□授業の到達目標 ①アセスメントツールとしてICFを使える。 ②介護予防の必要性を具体的に表現できる。 ③日常生活支援にレクリエーションの視点を取り入れることができる。									
□成績評価の方法				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 ・提出物（課題）には出席状況の評価が含まれます。			
出席状況					-	□学生へのメッセージ ・遊び心を大切にし、感性を磨きましょう。 ・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。 ・一緒に学びを楽しみましょう。 ・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp			
試験等	提出物				50				
	レポート				-				
	随時試験				-				
	定期試験				50				
	平常の授業状況(授業態度)								
その他（ ）									
合 計					100%				
□テキスト ・最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ（中央法規出版）					□参考図書・資料・参考ホームページ ・ICF国際生活機能分類 世界保健機関（WHO）他				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	講師紹介／授業内容解説／評価方法解説／介護福祉士の専門性
2	自立支援の考え方と方法	自立支援を実践するための「仮説」の立て方を学ぶ
3	エンパワメントアプローチ	ストレングスに焦点をおいた生活モデルの基づく生活支援を学ぶ
4	ICFを使う①	国際的なアセスメントツールとしてのICFを学ぶ
5	ICFを使う②	アセスメントの視点と評価の基準／活動と参加、環境因子の関係性を学ぶ
6	ICFを使う③	介護の専門性と看護とソーシャルワークとの隣接領域を学ぶ
7	介護予防の概要	介護予防の目的と考え方／介護予防サービスと高齢者について学ぶ
8	介護予防の実際①	自立支援と介護予防について理解を深める(医学モデルから生活モデルへ)
9	介護予防の実際②	介護予防の必要性(世界の動向と日本の近未来を考える)
10	自立支援とレクリエーション	自立支援の視点からレクリエーションの意義と目的を学ぶ
11	レクリエーションの企画	意欲を引き出し関係構築に役立つレクリエーションの技法と提案方法
12	レクリエーションの実践	レクリエーションの模擬実践してみる
13	自立支援の課題①	key wordsの理解度を確認
14	自立支援の課題②	自立支援を実践するための課題を考える
15	期末試験	レポート提出

科目名	介護の基本Ⅳ			担当教員		比嘉 充吉		単位数	3
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護事業所管理者、経営本部経営企画課、現在は経営本部で施設事業担当をしています。介護におけるリスクマネジメントについて指導します						
□位置付け 介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、多職種連携の意義を理解する。									
□授業の目的 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を生活の視点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解する。									
□授業の到達目標 ・介護福祉士を取り巻く状況や背景を、わが国の介護の歴史を通して理解すると共に、現在の介護福祉士の担う社会的役割を理解する									
□成績評価の方法を				評価項目	割合	□成績評価に関するコメント			
出席状況					20	・定期試験だけでなく、授業中のワーク及び授業態度についても評価の対象になります。			
試験等	提出物				-	□学生へのメッセージ ・様々なリスクから利用者、自分を守るために必要な知識を身につけ、介護の現場で活躍できる人材になることを目指します。			
	レポート・小テスト				-				
	随時試験				10				
	定期試験				50				
	平常の授業状況（ ）				20				
その他（ ）				-					
合 計					100				
□テキスト 最新介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 中央法規					□参考図書・資料・参考ホームページ 随時お知らせします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護における安全の確保とリスクマネジメント(第1節:介護における安全の確保)	セーフティーマネジメントの考え方を理解する
2	介護における安全の確保とリスクマネジメント	安全の確保を組織全体で取り組む重要性を学ぶ 安全な暮らしの支援が、利用者の尊厳の保持に結びつくことの重要性を理解する
3	介護における安全の確保とリスクマネジメント(第2節:リスクマネジメント)	ルールや約束を守ることの重要性を理解する
4	介護における安全の確保とリスクマネジメント	福祉サービスに求められる安心や安全について学ぶ
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止・予防のための対策について学ぶ 事例検討を通じて理解を深める
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止・予防のための対策について学ぶ 事例検討を通じて理解を深める
7	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止・予防のための対策について学ぶ 事例検討を通じて理解を深める
8	介護における安全の確保とリスクマネジメント(第3節:感染症対策)<定期試験>	介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識について学ぶ 定期試験(前期)
9	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識について学ぶ 高齢者の特性を理解し、感染症対策について学ぶ 感染を予防するための具体的な方法を学ぶ
10	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識について学ぶ 高齢者の特性を理解し、感染症対策について学ぶ 感染を予防するための具体的な方法を学ぶ

11	介護従事者の安全 (第1節:健康管理の意義と目的)	働く人の健康や生活を守る法制度を学ぶ
12	介護従事者の安全 (第1節:健康管理の意義と目的)	働く人の健康や生活を守る法制度を学ぶ
13	介護従事者の安全	介護に従事することで生じやすい健康問題を学ぶ 介護従事者の健康管理について学ぶ 事例検討
14	介護従事者の安全	介護に従事することで生じやすい健康問題を学ぶ 介護従事者の健康管理について学ぶ 事例検討
15	介護従事者の安全 (第2節:こころの健康管理)	ストレスとこころの健康との関係について学ぶ 介護従事者のこころの病気について学ぶ こころの健康管理について学ぶ
16	介護従事者の安全 (第2節:こころの健康管理)	ストレスとこころの健康との関係について学ぶ 介護従事者のこころの病気について学ぶ こころの健康管理について学ぶ
17	介護従事者の安全 (第2節:こころの健康管理)	ストレスとこころの健康との関係について学ぶ 介護従事者のこころの病気について学ぶ こころの健康管理について学ぶ
18	介護従事者の安全 (第3節:身体の健康管理)	介護従事者の身体健康障害の要因を理解する 介護従事者の身体健康障害を理解する
19	介護従事者の安全 (第3節:身体健康障害)	介護従事者の身体健康障害の要因を理解する 介護従事者の身体健康障害を理解する GW
20	介護従事者の安全 (第3節:身体健康障害)	介護従事者の身体健康障害の要因を理解する 介護従事者の身体健康障害を理解する GW
21	介護従事者の安全 (第4節:労働環境の整備)	労働条件の整備について学ぶ 事例検討
22	介護従事者の安全 (第4節:労働環境の整備)	労働条件の整備について学ぶ 事例検討
23	介護の基本Ⅳ 総論 定期試験	介護におけるリスク対策を振り返る 定期試験(後期)

科目名	介護の基本Ⅴ			担当教員		信川 京子		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	大学院終了後、介護福祉士として高齢者施設で3年、社会福祉士として同施設介護普及課・研修センターで4年勤務。現在は神奈川県介護福祉士会に所属し、福祉サービス第三者評価委員、初任者研修・実務者研修、介護福祉士国家試験対策講座の講師なども務めている。自身の経験を基にに分かりやすく講義する。併せて、国家試験対策も行っていきたい。						
□位置付け 介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、多職種連携の意義を理解する。									
□授業の目的 介護を必要とする人の生活の個性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解できるようにする。また、介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できるようにする。									
□授業の到達目標 ①私たちの生活は「時間・空間・生活リズム」が相互に関連し構成されていることを理解する。 ②私たちの生活を構成する要素・特性について理解する。 ③介護福祉を必要とする人たちのその人らしさや生活の多様性についてを理解する。 ④生活を支えるフォーマルサービス・インフォーマルサービスの特徴を理解する。 ⑤地域福祉の目的、意義、団体、にない手について学ぶ。									
□成績評価の方法を			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				10	成績評価は、出欠・遅刻・早退状況（10 点）、レポート・提出物等（20 点）、授業への積極的参加《グループ活動、質問、発表》（10 点）、定期試験（60 点）、総合的に判断します。				
試験等	提出物			—	□学生へのメッセージ ・授業の最後に、授業内容の確認を行います。 ・グループワークは「前向きな討論や議論」を希望します。 ・新聞から授業に関連がある内容を探し発表していただきます。				
	レポート・小テスト			20					
	随時試験			—					
	定期試験			60					
	平常の授業状況（ ）			10					
その他（ ）			—						
合 計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ（中央法規）					□参考図書・資料・参考ホームページ ① 厚生労働省ホームページ ② 内閣府：高齢社会白書 令和2年度版 ③ 見て覚える介護福祉士国試ナビ（中央法規）				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	自己紹介、授業内容・評価などを説明する。
2	私たちの生活の理解	生活とは何かを理解する。
3		生活にとって大事な要素・特性について理解する。
4		介護福祉を必要とする人の「暮らし」の多様性を理解する。
5	介護福祉を必要とする人たちの暮らし	介護を必要とする高齢者の暮らし、事例を学ぶ。
6		介護を必要とする障害者の暮らしの事例を学ぶ。 演習1-2
7		その人らしさや多様性について理解する。
8	「その人らしさ」と「生活のニーズ」の理解	生活のしづらさやその視点について理解する。
9		「生活のしづらさ」「家族介護者」に対する理解と支援を理解する。
11	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活を支えるフォーマルサービスについて理解する。
12		生活を支えるインフォーマルサービスについて理解する。
13		地域連携の意義と目的、組織・団体・担い手について学ぶ。
14	予備日、まとめ	試験対策
15	試験	

科目名	生活支援技術Ⅳ			担当教員		濱野 厚子		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士および介護支援専門員として介護施設・事業所に20年勤務。施設及び在宅での介護経験をもとに介護福祉士で大切な視点を伝える。						
□位置付け 個人の暮らしと生活のありようを学び、各々の生活場面における支援技術を理解し実施できるための科目。									
□授業の目的 ・生活支援技術を学ぶ意義を理解し、自立支援の観点から介護実践できる能力を学ぶ。 ・あらゆる介護場面に対応できる基本的な介護の知識・技術を理解する。 ・リスクマネジメントなど、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。									
□授業の到達目標 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な生活支援技術（介護技術）を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得する。介護福祉士としての実践力を身につけていく。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				5	実際に身体を使って介護の知識を学びます。直接人と接する技術なので「こころ」が伝わります。 筆記試験・実技試験ともに合格することが必須です。 提出物は期限を守りましょう。				
試験等	提出物			10					
	レポート								
	随時試験								
	定期試験			40					
	平常の授業状況(授業態度)			5					
		その他（実技試験）		40	□学生へのメッセージ 国家試験における生活支援技術は全問題の20%を占めます。基本的な知識と技術など身体を使って習得しましょう。 身だしなみ等を整えてください。整っていない場合には見学になることもあります。				
合 計				100%					
□テキスト 最新介護福祉士養成講座3「生活支援技術」中央法規					□参考図書・資料・参考ホームページ 「こころとからだのしくみ」「介護福祉士国試ナビ」 「新しい介護」講談社 他は授業時に紹介				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	生活支援技術とは①	介護技術とは コミュニケーションを活用した生活支援技術
2	生活支援技術とは②	介護技術とは 1年次振り返り
3	身じたくの介護①	自立にむけた身じたくの介護①
4	身じたくの介護②	自立に向けた身じたくの介護②
5	身じたくの介護③	自立に向けた身じたくの介護③
6	排泄の介護①	自立に向けた排泄の介護①
7	排泄の介護②	自立に向けた排泄の介護②
8	排泄の介護③	自立に向けた排泄の介護③
9	移動の介護	自立に向けた移乗介助
10	移動の介護	杖歩行の介護①
11	移動の介護	杖歩行の介護②
12	清潔保持の介護	手浴・足浴・清拭
13	前期総合学習	事例に基づいた介護（事例検討～実施まで）
14	実技試験	生活支援技術の振り返り
15	前期定期試験	筆記試験 生活支援技術の振り返り

回数		
16	入浴・清潔保持の介護①	自立にむけた入浴の介護①
17	入浴・清潔保持の介護②	自立にむけた入浴の介護②
18	清潔保持の介護	整容・口腔ケア
19	睡眠の介護①	睡眠の意義と目的 睡眠と薬
20	睡眠の介護②	休息・睡眠における多職種との連携
21	終末期の介護①	終末期における介護の役割
22	終末期の介護②	終末期における多職種との連携
23	総合学習①	事例に基づいた生活支援技術
24	排泄の介護①	最新の排泄ケア用品の理解
25	排泄の介護②	最新の排泄ケア用品の理解
26	総合学習②	認知症介護技術とは「認知症ケアの7原則」①
27	総合学習③	認知症介護技術とは「認知症ケアの7原則」②
28	2年次総合学習	介護過程を活用した生活支援技術（事例検討～実施まで）
29	実技試験	生活支援技術の振り返り
30	後期試験	筆記試験 生活支援技術の振り返り

科目名	生活支援技術Ⅶ			担当教員		松田 朗		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、PSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
□位置付け 介護を必要とする人の個別性を重視し、疾病や障害のもつ特性を理解し、利用者の状態・状況に応じた知識と技術を習得する。									
□授業の目的 ・対象者や場所など多様な介護場面に汎用可能な基本的な介護の知識と技術を修得する。 ・想定できる介護場面において、自立支援の観点から介護サービスを実践できる基盤となる能力を修得する。 ・想定できる介護場面において、安全に配慮した介護サービスを実践できる基盤となる能力を修得する。 ・多職種連携の際の介護福祉士の役割への理解を深める。									
□授業の到達目標 ・介護を必要とする人の個別性を重視し、想定できる介護場面に共通する基礎的な知識と技術の活用方法を、根拠に基づいて想定することができる。 ・介護を必要とする人の現状(心身・環境)を適切に把握し、「していること・できること」を活かした、安全に配慮した支援を提案できる。 ・職種間のネットワークを築き維持するための観察と情報共有に要する留意点を想定できる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				-	・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・平常の授業状況は話を聴く姿勢、ペアワークやグループワークへの取り組み方が評価の対象となります。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 □学生へのメッセージ ・遊び心を大切にし、感性を磨きましょう。 ・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。 ・一緒に学びを楽しみましょう。				
試験等	提出物			-					
	レポート			50					
	随時試験			-					
	定期試験			50					
	平常の授業状況(授業態度)			-					
その他 ()			-						
合 計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座 8 「生活支援技術Ⅲ」 最新版 中央法規					□参考図書・資料・参考ホームページ 授業の中でご紹介していきます。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション/はじめに	授業内容・進め方・成績評価等について説明いたします。/意義と目的
	肢体不自由に応じた介護①	生活上の困りごとを具体的にイメージでき、適切な判断のもと対象者に適った手技等を選択し提供できるように技術を学びます。
3	肢体不自由に応じた介護②	
4	視覚障害に応じた介護①	視覚に障害を持った状態での生活を疑似体験し、その体験から生活上の困りごとを具体的にイメージする術を修得し、適切な支援を創っていく技術を学びます。
5	視覚障害に応じた介護②	
6	視覚障害に応じた介護③	
7	聴覚言語障害に応じた介護①	コミュニケーション障害に焦点を当て、対象者に応じた具体的な支援技術を選択できるための基本知識と、いくつかの代表的な技術を学びます。
8	聴覚言語障害に応じた介護②	
9	重症心身障害に応じた介護①	事例に基づいて、生活上の困難を具体的にイメージしていき、具体的な支援技術への理解を深めます。
10	重症心身障害に応じた介護②	
11	知的障害に応じた介護①	事例等に基づいて生活上の困りごとを確かめ、支援の際の留意事項などから障害の特性への理解を深めます。
12	知的障害に応じた介護②	
13	居宅介護	居宅介護の現状と現場に入る際の心構えと態度をお伝えいたします。
14	前期振り返り	総復習
15	定期試験	レポート提出

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	精神障害に応じた介護①	精神障害をお持ちの方としっかり向き合えるための心構えを学びます。統合失調症・気分障害・適応障害・抑うつ神経症・依存症などの障害特性を踏まえた支援方法を学びます。
17	精神障害に応じた介護②	
18	精神障害に応じた介護③	
19	高次脳機能障害に応じた介護	障害の特性への理解を深め、支援の際の心構えを学びます。
20	発達障害に応じた介護	障害の特性への理解を深め、支援の際の心構えを学びます。
21	筋萎縮性側索硬化症に応じた介護	難病を抱えながらの生活への理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
22	ALSに応じた介護②	
23	ALSに応じた介護③	
24	パーキンソン病に応じた介護①	難病を抱えながらの生活への理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
25	パーキンソン病に応じた介護②	
26	悪性関節リウマチに応じた介護①	難病を抱えながらの生活への理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
27	悪性関節リウマチに応じた介護②	
28	筋ジストロフィーに応じた介護①	難病を抱えながらの生活への理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
29	筋ジストロフィーに応じた介護②	
30	定期試験	レポート提出

科目名	介護過程Ⅱ			担当教員		中嶋 純也		単位数	4																							
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	演習	法令等指定	○																							
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○																							
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設・事業所に20年勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護実践で大切な根拠ある介護方法についての思考過程の展開について講義する。																													
□位置付け 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。																																
□授業の目的 利用者理解を図りながら、必要な情報収集を行い、その情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施・評価する一連の過程であり、介護過程の理論と実習体験を関連付けながら介護過程を展開する能力の育成を目指す。																																
□授業の到達目標 ・介護過程の展開について具体的な実施の事例を通して理解する。 ・介護過程による介護計画とケアマネジメントの違いを知る。 ・ICFの概念を取り入れ、利用者の潜在能力を引き出し活用・発揮することの意義について理解できる。 ・自立度や生活の場に応じた介護・医療・保健との連携協働を要とする介護、終末期における介護の展開など、様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解できる																																
□成績評価の方法 <table><tr><td colspan="2">評価項目</td><td>割合</td></tr><tr><td colspan="2">出席状況</td><td>30</td></tr><tr><td rowspan="5">試験等</td><td>提出物</td><td>40</td></tr><tr><td>レポート</td><td>20</td></tr><tr><td>随時試験</td><td>—</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>—</td></tr><tr><td>平常の授業状況（ ）</td><td>10</td></tr><tr><td colspan="2">その他（ ）</td><td>—</td></tr><tr><td colspan="2">合 計</td><td>100%</td></tr></table>				評価項目		割合	出席状況		30	試験等	提出物	40	レポート	20	随時試験	—	定期試験	—	平常の授業状況（ ）	10	その他（ ）		—	合 計		100%	□成績評価に関するコメント 出席状況、提出物、定期試験、授業態度すべて評価に含まれます。特に提出物については、提出期限を厳守してください。評価の詳細は、初回の授業にて説明します。 □学生へのメッセージ ・授業に出席することが前提です。やむを得ず欠席した場合には次の授業までに必ず、担当教員に確認してください。 ・介護実習では介護過程を展開するので、これまで学んだ知識が総合的に必要になります。					
評価項目		割合																														
出席状況		30																														
試験等	提出物	40																														
	レポート	20																														
	随時試験	—																														
	定期試験	—																														
	平常の授業状況（ ）	10																														
その他（ ）		—																														
合 計		100%																														
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程（中央法規）					□参考図書・資料・参考ホームページ 担当教員により随時ご紹介いたします。																											

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護過程の理解	介護過程の全体像
2	〃	アセスメント（課題の解釈・関連づけ・統合化）
3	〃	アセスメント（課題の明確化）
4	介護過程の実践的展開	アセスメントの実際（介護実習Ⅱでの事例を用いた情報収集）
5	〃	アセスメントの実際（課題の解釈・関連づけ・統合化）
6	〃	アセスメントの実際（課題の明確化）
7	介護過程の理解	介護計画の立案について計画とは・目標の立て方・計画）
8	〃	介護計画の立案について計画とは・目標の立て方・計画）
9	〃	介護過程の立案について（実施・評価・再アセスメント）
10	介護過程の実践的展開	介護計画の展開（計画の立案）
11	〃	介護過程の展開（計画の立案）
12	〃	介護過程の展開（実施・評価）
13	〃	介護過程の展開（実施・評価）
14	〃	介護過程の展開（事例を通してレポート作成）
15	まとめ	介護実習Ⅲに向けて

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	実習の振り返り（インシデント・アクシデントチェック）
17	〃	ケーススタディ（介護実習Ⅲ介護過程の事例を活用）整理①
18	〃	〃（ 〃 ）整理②
19	〃	〃（ 〃 ）グループワーク①事例紹介
20	〃	〃（ 〃 ） 〃 ②事例紹介
21	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク① 事例作成
22	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク② 事例作成
23	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク③ 事例作成
24	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク④ 事例作成
25	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク⑤事例まとめ
26	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク⑥事例まとめ
27	〃	ケーススタディ①（リハーサル）
28	ケーススタディ	ケーススタディ②（リハーサル）
29	〃	ケーススタディ③（発表会）
30	〃	ケーススタディ④（発表会）

科目名	介護過程Ⅲ			担当教員		水沢 吉伸		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設等で30年以上勤務。実務経験をもとに授業を行う。						
□位置付け 介護保険制度において、介護支援専門員による適切な介護サービスの在り方を習得する。									
□授業の目的 介護支援専門員に必要なスキルを学ぶ ①介護保険の目的を理解する ②介護保険のしくみを理解する ③ケアマネジメントのプロセスを理解する ④地域における社会資源を知る									
□授業の到達目標 ケアマネジメントのプロセスを理解し、利用者の課題解決に向けた具体的な援助を導き出すプランをイメージできるようになる									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				10	授業に出席すること、授業における姿勢、大事にします。				
試験等	提出物			10	□学生へのメッセージ 自ら、主体的に授業に参加して下さい				
	レポート			－					
	随時試験			－					
	定期試験			70					
	平常の授業状況（ ）			10					
その他（ ）			－						
合 計				100%					
□テキスト 随時、プリントを配付します					□参考図書・資料・参考ホームページ				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護保険制度の理念・目的①	介護保険創設の背景と理念について理解する
2	介護保険制度の理念・目的②	介護保険制度の理念を考え、全体で共有する
3	介護サービスの利用のしかた①	介護サービスを利用するまでの手続の流れを理解する
4	介護サービスの利用のしかた②	地域包括支援センターを理解する
5	介護保険サービスと介護報酬①	サービス内容、介護報酬を理解し、サービスの期待できる効果を考える
6	介護保険サービスと介護報酬②	サービス内容、介護報酬を理解し、サービスの期待できる効果を考える
7	介護保険外の公的サービス	それぞれの市区町村独自のサービスを理解する
8	社会資源の開発	インフォーマルなサービスについて考える
9	相談援助技術について	ケアマネジメントにおける相談面接を理解する
10	ケアマネジメント	ケアマネジメントのプロセスを理解する
11	アセスメントについて	情報収集・ニーズの抽出・目標設定について理解する
12	ケアプランの作成①	グループワークで、実際にケアプランを作成する
13	ケアプランの作成②	事例を通じて、実際にケアプランを作成する
14	ケアプランの作成③	事例を通じて、実際にケアプランを作成する
15	定期試験	試験

科目名	介護総合演習Ⅱ			担当教員		中嶋・松田		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						
□位置付け 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。 質の高い介護実践やエビデンスの構築に繋がる実践研究の意義とその方法を理解する。									
□授業の目的 - 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 - 多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。									
□授業の到達目標 - 介護実習の重要性について理解できる。 - 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。 - 介護実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ实际的に理解できるようになる。 - 習得した学内諸学習を応用し、実践的な技術等を身につけられる。 - 介護福祉士としての自覚ができ、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応力を取得できる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				50	定期試験としての筆記や実技の試験はありませんが、出席状況、提出物で評価されます。提出物等は担当教員からの説明をよく聞き指示に従ってください。				
試験等	提出物			30	□学生へのメッセージ 介護総合演習は介護実習が充実した意義のあるものにするための授業です。				
	レポート			－					
	随時試験			－					
	定期試験			20					
	平常の授業状況(授業態度)			－					
その他（									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション①	介護実習Ⅲ・Ⅳの目的・意義
2	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション②	介護実習Ⅲ・Ⅳに関連した事前学習
3	障害者総合支援とは何か①	障害者福祉における地域移行の実際①
4	障害者総合支援とは何か②	障害者福祉における地域移行の実際②
5	地域包括ケアシステムとは何か①	地域包括ケアシステムの概要
6	地域包括ケアシステムとは何か②	地域包括ケアシステムの実際
7	介護実習Ⅳオリエンテーション①	在宅介護の概要
8	介護実習Ⅳオリエンテーション②	在宅介護の実際
9	介護実習Ⅳオリエンテーション③	在宅介護の実際
10	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション③	介護実習Ⅲ・Ⅳの目標と個人目標
11	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション④	介護実習Ⅲ・Ⅳの心構え・取り組み方①
12	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション⑤	介護実習Ⅲ・Ⅳの心構え・取り組み方②
13	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション⑥	実習巡回教員による個別指導
14	介護実習Ⅲ 帰校日①	実習巡回教員による個別指導
15	介護実習Ⅲ 帰校日②	実習巡回教員による個別指導

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護実習Ⅲ 帰校日③	実習巡回教員による個別指導
17	介護実習Ⅲ 帰校日④	実習巡回教員による個別指導
18	定期試験	レポート
19	介護実習Ⅲ・Ⅳの振り返り①	介護実習Ⅲ・Ⅳで得た学びの共有①
20	介護実習Ⅲ・Ⅳの振り返り②	介護実習Ⅲ・Ⅳで得た学びの共有②
21	介護実習Ⅲ・Ⅳの振り返り③	介護実習Ⅲ・Ⅳの自己評価
22	介護の実践の科学的探究①	実践事例とエビデンスの検討①
23	介護の実践の科学的探究②	実践事例とエビデンスの検討②
24	介護の実践の科学的探究③	実践事例とエビデンスの検討③
25	介護の実践の科学的探究④	実践事例とエビデンスの検討④
26	特別講義	自立した日常生活とは何か①
27	特別講義	自立した日常生活とは何か②
28	特別講義	今後の介護福祉の展望①
29	特別講義	今後の介護福祉の展望②
30	「求められる介護福祉士像」	資格取得時の到達目標に対しての自己評価

科目名	介護実習Ⅲ			担当教員		松田・中嶋		単位数	6
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						
□位置付け									
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。									
□授業の目的									
実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。 介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。									
□授業の到達目標									
・受容、共感的態度を基盤に、利用者との個別的なかわりを深める。 ・利用者の全体像をとらえ、個別の介護ニーズを把握できる。 ・利用者に適した介護方法を考え、適切な介護を実践できる。実施した介護方法を考察し、評価できる。 ・1人の利用者の全体像をとらえ、介護過程をより深めて展開できる。研究的態度を養う。 ・施設サービス全般ならびに社会的役割を認識できる。地域社会における施設の役割を理解できる。 ・介護職ならびに関係職種と連携、協働できる。介護過程の展開を通し、チームワークの具体的あり方を学ぶ。									
□成績評価の方法									
評価項目			割合		□成績評価に関するコメント				
出席状況			60		・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。 ・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。				
試験等	提出物		－		□学生へのメッセージ				
	レポート		－		介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。実習期間中は巡回担当教員が定期的に指導を行います。何でも遠慮なく相談してください。				
	随時試験		－						
	定期試験		－						
	平常の授業状況（実習の状況）		40						
その他（ ）			－						
合 計			100%						
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
・最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規） ・介護実習の手引き									
□授業計画									
回数	テーマ			授業の内容、進め方					
	介護実習Ⅲ			オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される）					
	(23日間)			コミュニケーション					
				生活支援技術（身じたくの介護）					
				〃（移動の介護）					
				〃（食事の介護）					
				〃（入浴・清潔保持の介護）					
				〃（排泄の介護）					
				〃（睡眠の介護）					
				〃（看取りの介護）					
				レクリエーション					
				介護過程の展開（1人の利用者の全体像をとらえ、ニーズを把握する。利用者に適した介護方法を考え実践する。実践した介護方法を考察し、評価する）					
				※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。					
				24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく早番・遅番・夜勤などの変則勤務（実習）を体験することがある。					

科目名	介護実習Ⅳ			担当教員		松田・中嶋		単位数	1
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						
□位置付け 対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解する。									
□授業の目的 実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。 介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。									
□授業の到達目標 ・利用者や家族との接し方を学ぶ。 ・利用者及び家族の生活状況を理解するとともに、ニーズを知る。 ・在宅福祉サービスの実際に参加し、状況に合った支援方法について知る。 ・自分の学びを整理し記録できる。 ・在宅福祉サービスの内容及び社会資源を理解できる。 ・介護サービス計画を通して、チームワークや他の関係機関との連携のあり方を具体的に学ぶ。 ・介護福祉士として守るべき倫理と態度を身につける。 ・実習を振り返り、生活支援者としての自己を客観視できる。 ・介護福祉士としての介護者観を明確にできる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				60	・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。				
試験等	提出物			—	・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。				
	レポート			—	□学生へのメッセージ				
	随時試験			—	介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。				
	定期試験			—					
	平常の授業状況（実習の状況）			40					
その他（ ）				—					
合 計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
・最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規） ・介護実習の手引き									

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護実習Ⅳ	訪問介護員に同行し、利用者宅を訪問して実習する。
2	(4日間)	〃
3	↓	〃
4	↓	〃

科目名	こころとからだのしくみⅡ			担当教員		飯田 美里		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として、がん専門病院（消化器、呼吸器、乳腺、整形外科病棟、術後回復室等）に7年、訪問看護7年、放課後等デイサービス（重症心身障がい児のケア）4年勤務。介護に必要なこころとからだのしくみについて指導する。						
□位置付け 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。									
□授業の目的 この科目では、心と体の両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。また、残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出す。									
□授業の到達目標 1. 移動、食事、入浴・清潔保持、休息・睡眠に関連した心と体のしくみについて理解する。 2. 移動、食事、入浴・清潔保持、休息・睡眠に関連した心と体の変化について理解し、利用者の状態の変化に気づくことができるようになる。また、医療職との連携について理解する。 3. 人生の最終段階のケアに関連した心と体のしくみについて学び、終末期の利用者及び家族への支援について理解を深める。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				—	・授業態度、定期試験で評価します。				
試験等	提出物			—	□学生へのメッセージ ・テキストを中心に、参考資料等を使い授業を進めていきます。 ・専門用語やわからない言葉は調べておきましょう。 ・復習のためのプリントでポイントを押さえましょう。				
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			90					
	平常の授業状況（授業態度）			10					
その他（ ）			—						
合 計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規）					□参考図書・資料・参考ホームページ 適宜紹介します。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	移動に関連したしくみ	移動のしくみ
2	〃	〃
3	〃	心身の機能低下が移動に及ぼす影響
4	〃	〃
5	〃	移動における観察のポイントと対応 医療職との連携
6	食事に関連したしくみ	食事のしくみ
7	〃	〃
8	〃	心身の機能低下が食事に及ぼす影響
9	〃	〃
10	〃	食事における観察のポイントと対応 医療職との連携
11	入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ
12	〃	〃
13	〃	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
14	〃	〃
15	定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持における観察のポイントと対応 医療職との連携
17	休息・睡眠に関連したしくみ	休息・睡眠のしくみ
18	〃	〃
19	〃	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響
20	〃	〃
21	〃	休息・睡眠における観察のポイントと対応 医療職との連携
22	人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」のとりえ方
23	〃	終末期のケアのポイント
24	〃	「死」に対するこころの理解
25	〃	終末期から臨終期における身体機能の変化 死後のからだの変化
26	〃	在宅での看取りの準備 家族への援助
27	〃	終末期における医療職との連携 多職種連携
28	〃	在宅での看取りについて考える
29	まとめ	総復習
30	定期試験	筆記試験

科目名	障害の理解			担当教員		藍原 義勝		単位数	4																
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	講義	法令等指定	○																
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○																
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として医療法人が経営する在宅サービスに約 2 0 年間勤務。 患者・利用者の相談援助に従事する傍ら、地域づくりに 1 0 年以上活動 している。実例・経験をもとに講義を行う。																						
□位置付け 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地 域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解する。																									
□授業の目的 障害について様々な角度から学ぶ。障害の概念を基本として、障害のある人の状態像や心理について学び 介護福祉士として、障害のある人たちの地域生活を支援するために必要とされる基礎的知識をそう総合的に 修得する																									
□授業の到達目標 ① 障害の概念について学ぶ。 ② 障害のある人の状態像と心理について学ぶ。 ③ 障害のある人への介護上の留意点について学ぶ。 ④ 家族への支援と連携及び協働について学ぶ。																									
□成績評価の方法 <table><tr><td>出席状況</td><td>割合</td></tr><tr><td></td><td>20</td></tr><tr><td rowspan="5">試験等</td><td>提出物</td></tr><tr><td>レポート</td></tr><tr><td>随時試験</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>80</td></tr><tr><td>平常の授業状況(授業態度)</td></tr><tr><td colspan="2">その他 ()</td></tr><tr><td colspan="2">合 計</td><td>100%</td></tr></table> □成績評価に関するコメント ・出席状況を評価項目に設定します。 ・また、定期試験は、授業内容から出題しますので、普段の授業 が大事となります。 □学生へのメッセージ ・テキストに加えて、動画を活用するなど、興味深く、イメージ がわくように工夫をしていきたい。介護福祉士として、様々な 障害の特性を理解して支援できるように一緒に学びましょう。										出席状況	割合		20	試験等	提出物	レポート	随時試験	定期試験	80	平常の授業状況(授業態度)	その他 ()		合 計		100%
出席状況	割合																								
	20																								
試験等	提出物																								
	レポート																								
	随時試験																								
	定期試験	80																							
	平常の授業状況(授業態度)																								
その他 ()																									
合 計		100%																							
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解 (中央法規)					□参考図書・資料・参考ホームページ 厚生労働省ホームページ、WAM NET等																				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	障害の概念とは	障害の概念について学ぶ
2	障害者福祉の基本理念について	障害者福祉の基本理念について学び理解する
3	視覚障害について	視覚障害の特性と支援方法について学ぶ
4	聴覚障害について	聴覚障害の特性と支援方法について学ぶ
5	盲聾（もうろう）、重複障害について	盲聾（もうろう）、重複障害の特性と支援方法について学ぶ
6	身体障害について①	視覚障害等、肢体不自由の特性と支援方法について学ぶ
7	身体障害について②	胸椎損傷、頸椎損傷、脳性麻痺等の特性と支援方法について学ぶ
8	身体障害について③	福祉用具、老人性難聴、失語症等について学ぶ
9	内部障害について①	内部障害の特性と支援方法について学ぶ①
10	内部障害について②	内部障害の特性と支援方法について学ぶ②
11	精神障害について	精神障害の種類に触れて、各種の特性と支援方法について学ぶ
12	高次脳機能障害等について	高次脳機能障害等について学ぶ

回数		
13	知的障害について①	知的障害の特性と支援方法について学ぶ①
14	知的障害について②	知的障害の特性と支援方法について学ぶ②
15	発達障害について①	発達障害の特性と支援方法について学ぶ①
16	発達障害について②	発達障害の特性と支援方法について学ぶ②
17	難病について①	難病障害の特性と支援方法について学ぶ①
18	難病について②	難病障害の特性と支援方法について学ぶ②
19	障害のある人の心理①	障害のある人の心理について学ぶ①
20	障害のある人の心理②	障害のある人の心理について学ぶ②
21	障害に伴う機能の変化と日常生活への影響①	障害に伴う機能の変化と日常生活への影響を学ぶ①
22	障害に伴う機能の変化と日常生活への影響②	障害に伴う機能の変化と日常生活への影響を学ぶ②
23	地域におけるサポート体制①	各種サポート体制について学ぶ①
24	地域におけるサポート体制②	各種サポート体制について学ぶ②
25	地域におけるサポート体制③	各種サポート体制について学ぶ③
26	これまでの振り返り①	過去の復習①
27	これまでの振り返り②	過去の復習②
28	家族への支援	家族への支援方法と留意点について学ぶ
29	チームアプローチ	チームアプローチの重要性について学ぶ
30	定期試験	試験を受ける

科目名	発達と老化の理解Ⅰ			担当教員		岩上 由紀子		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として医療機関・保育園・訪問看護事業所に28年勤務。病院や在宅看護等での実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
□位置付け 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。									
□授業の目的 ①人間の成長と発達に関する基礎的な知識を習得する。 ②老化に伴う心と身体の変化が日常生活に及ぼす影響を理解する。 ③高齢者に多く見られる疾患と症状に関する基礎知識を習得する。									
□授業の到達目標 ①介護サービスを提供する際の科学的な根拠として、専門的知識を関連づけることができる。 ②介護計画をつくる際の仮説を立てる上で、科学的根拠として専門的知識を関連づけることができる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 ・提出課題には内容と出席状況評価が含まれます。 ・授業の中で演習もしますので、しっかりと取り組みましょう。				
出席状況					□学生へのメッセージ 専門用語が多い授業です。 わからない語句は「こころとからだのしくみ」のテキストを活用し、調べる習慣をつけましょう。 授業では、「こころとからだのしくみ」のテキストも使用しますので準備をお願いします。				
試験等	提出物			10					
	レポート								
	随時試験								
	定期試験			90					
	平常の授業状況（ ）								
その他（ ）									
合 計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 第2版 （中央法規出版）					□参考図書・資料・参考ホームページ				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション 老化に伴う身体的な変化と生活への影響①	授業の説明・評価について 加齢による生理機能の全体的低下
2	老化に伴う身体的な変化と生活への影響②	身体的機能の低下と日常生活への影響
3	老化に伴う心理的な変化と生活への影響①	認知機能の変化 知的機能の変化と心理的影響
4	老化に伴う心理的な変化と生活への影響②	パーソナリティの変化 老化と動機付け・適応
5	老化に伴う社会的な変化と生活への影響①	社会の中での生活上の課題
6	老化に伴う社会的な変化と生活への影響②	高齢者の社会的活動の現状と課題 社会における老化理論
7	健康長寿に向けての健康	平均余命と健康寿命
8	高齢者の症状・疾患の特徴	高齢者の症状・疾患の特徴と特有な症候
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①	骨格・筋・皮膚・感覚器系
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②	循環器・呼吸器系
	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③	消化器・腎・泌尿器系
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④	内分泌・代謝系／歯・口腔疾患
13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤	悪性新生物／感染症／精神疾患／その他
14	保健医療との連携	早期発見と連携連携
15	期末試験	定期試験

科目名	発達と老化の理解Ⅱ			担当教員		松田 朗		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、PSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
□位置付け 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。									
□授業の目的 ①人間の成長と発達に関する基礎的な知識を習得する。 ②人間の発達課題が生活に及ぼす心理的な影響や行動の特徴などを踏まえ、対象者の言動（感情）を肯定的に受け止めることができる ③自己理解を深める。									
□授業の到達目標 ①青年期の危機、中年機の危機、老年期の危機が生活に及ぼす影響を具体的に表現できる。 ②発達課題が生活にどのような影響を及ぼすかを理解し、エビデンスとナラティブの2つの視点から支援計画につながる仮説を立てることができる。 ③自分自身と向き合い、自分の行動や思考の特徴を発達心理学の視点から考えを深めることができる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 ・提出課題には出席状況評価が含まれます。				
出席状況				－	□学生へのメッセージ ・遊び心を大切にし、感性を磨きましょう。 ・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。 ・一緒に学びを楽しみましょう。 ・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp				
試験等	提出物		50						
	レポート								
	随時試験		－						
	定期試験		50						
	平常の授業状況（ ）		－						
	その他（ ）		－						
合 計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 （中央法規出版）					□参考図書・資料・参考ホームページ 「よくわかる臨床発達心理学(第4版)」 ミネルヴァ書房 「心理学理論と心理的支援(第2版)」 ミネルヴァ書房				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション/成長・発達の考え方	授業内容・レポートの書き方・評価基準と方法の説明/授業への導入
2	成長・発達の原則・法則/成長・発達に影響する要因	影響因子を支援の際にどのように活かす（留意する）のかを学びます。
3	成長・発達に影響する要因/発達理論	いくつかの理論を学び、それらの支援への活かし方を学びます。
4	発達理論/発達段階と発達課題①	ペアワークとグループワークを通して、環境との相互作用における心身の変化を具体的な生活場面を想定しながら時系列で学び、さらに支援計画にどのように活かしていくかを学びます。
5	発達段階と発達課題②/発達段階と発達課題③	
6	発達段階と発達課題④/身体的機能の成長と発達	
7	身体的機能の成長と発達/心理的機能の発達①	身体の成長・発達を学生自身の成長・発達に照らし合わせて学びます。
8	心理的機能の発達②/心理的機能の発達③	心の成長・発達を具体的な事例を交えて学び、人への理解を深めます。
9	社会的機能の発達①/ 社会的機能の発達②	人間関係の形成やチームの形成を念頭に発達との関係性を学びます。
10	社会的機能の発達③/老年期の定義	ペアワークとグループワークを通して、高齢者に焦点を当てて心と身体の機能的な変化と発達との関係性を、生活場面を想定しながら学び、さらに支援計画にどのように活かしていくかを学びます。
11	老化とは/老年期の発達課題①	
12	老年期の発達課題②/老年期の発達課題③	
13	老年期をめぐる今日的課題①	住み慣れた町の、住み慣れた家で、馴染みの人たちと、活き活きと、楽しく暮らし続けるための支援を学びます。
14	老年期をめぐる今日的課題②	
15	定期試験	レポート提出

科目名	認知症の理解			担当教員		大川 直人		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として、介護事業所で15年以上勤務。現場では、生活相談員、介護支援専門員、管理者、施設長などを歴任し、現在は、法人本部にて、法人経営に係る企画、立案を統括する立場として勤務している。 認知症の方の理解を事例や視覚教材を使用して分かりやすく伝える。						
□位置付け 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するため基礎的知識を習得する。									
□授業の目的 授業の大きな目的は「その人と向き合うこと」について、認知症の方の事例研究やDVDなどの映像を見ながら、自らが考え、気づくことができるようになることとしています。在宅介護、施設介護を問わず、介護福祉士が活躍する場面において、認知症状のある方を支援する場面がたくさん生じます。その時、介護福祉士として求められる専門性を発揮し、適切な対応をとることが期待されます。講義では、主に知識を得ることによって、認知症状に関する専門性の基礎を構築し「考える」力を身に付けていきましょう。また、グループワークやワークショップ形式を活用して、様々な「気づき」を得るようにしましょう。									
□授業の到達目標 認知症を十分理解し、適切な観察と洞察力を身につけ、対象者（利用者）の思いに沿った介護が実践できるようになりましょう。 また、入職した後にも、授業で学んだことと実際の現場で感じるであろう、ギャップや疑問についての乗り越えかたや整理方法などを学ぶようにしましょう。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				20	講義の内容から、知識の習熟度の効果測定を行います。その際、提出物やレポートを求める場合があります。				
試験等	提出物			10	また、グループワークへの参加態度や意見の内容についても評価していきます。				
	レポート			10	主体的な姿勢で臨みましょう。				
	随時試験			－					
	定期試験			30					
	平常の授業状況（ ）			30					
その他（ ）			－	□学生へのメッセージ 積極的に講義に参加してください。講義中は対話を通じて皆さんの意見や感想を求めます。					
合 計				100%					
□テキスト 最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 （中央法規出版）					□参考図書・資料・参考ホームページ 現場でも、よく使われるリーフレットなどは、逐次コピーなどしてお渡しいたします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	認知症とは何か	講義と演習
2	〃	
3	脳の仕組み	講義と演習
4	〃	
5	認知症の人の心理	講義と演習
6	〃	
7	中核症状の理解	講義と演習
8	〃	
9	生活障害の理解	講義と演習
10	〃	
11	BPSDの理解	講義と演習
12	認知症の診断と重症度	講義と演習
13	認知症の原因疾患と症状・生活障害	講義と演習
14	〃	
15	認知症の治療薬	講義と演習

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	認知症の予防	講義と演習
17	認知症を取り巻く状況	講義と演習
18	〃	
19	認知症ケアの理念と視点	講義と演習
20	〃	
21	認知症当事者の視点からみえるもの	講義と演習
22	〃	
23	認知症ケアの実際	講義と演習
24	〃	
25	環境づくり	講義と演習
26	介護者支援	講義と演習
27	認知症の人の地域生活支援	講義と演習
28	まとめ	講義
29	定期試験	筆記試験
30	定期試験	筆記試験

科目名	医療的ケアⅡ			担当教員		岩上・飯田		単位数	1
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	事業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として医療機関・保育園・訪問看護事業所に28年勤務。病院や在宅看護等での実務経験をもとに介護福祉で大切な視点を伝える。						
□位置付け 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。									
□授業の目的 1 医療的ケア実施の基礎を学ぶ。 2 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順を理解し実施できる。 3 経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解し実施できる。									
□授業の到達目標 ・喀痰吸引に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる。 ・実施後の利用者の状態を観察し、報告ができる。 ・経管栄養に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる。 ・実施後の利用者の状態を観察し、報告ができる。 ・心肺蘇生の必要性が判断でき、実施できる。 ・AEDの基本操作ができる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				—	・医療的ケアⅡでは、試験合格者のみ、進むことができます。 ・喀痰吸引、経管栄養とも5回以上実施します。限られた時間での演習のため、放課後の時間を有効につかい回数を積みましょう。 ・実技試験に合格すると、基本研修修了認定が受けられます。				
試験等	提出物			—	□学生へのメッセージ ・医療的ケアⅠ同様、Ⅱでも出席を前提とします。評価項目には入れませんが欠席した場合は補習になるためご注意ください。 ・医療的ケアⅡは演習・実技試験になります。操作を間違えると命に関わるため、緊張感をもち取り組んでください。演習の際は、身だしなみ等を整えてください。整っていない場合は、見学となることがあります。 ・演習準備、片付けも授業の一環です。積極的に参加しましょう。 ・授業後の練習も積極的に参加しましょう。				
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験（実技試験）			100					
	平常の授業状況（ ）			—					
その他（ ）			—						
合 計				100%					
□テキスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規）第2版					適宜紹介します				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引	喀痰吸引の実施
2	〃	〃
3	〃	〃
4	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養	喀痰吸引の実施 経管栄養の実施
5	高齢者及び障害児・者の経管栄養	経管栄養の実施
6	〃	〃
7	実技試験	喀痰吸引/経管栄養実技試験
8	実技試験	〃
9	実技試験	〃
10	実技試験	〃

科目名	介護福祉ゼミⅡ			担当教員		松田 朗		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	2 年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						
□位置付け 読む書く聞く発表する学習を通して文章力や読解力、表現力を身につけ、わかりやすい正しい記録ができる。また自己学習の仕方を身につける。									
□授業の目的 自己学習の仕方を学ぶ。 国家試験合格を目指して、各試験科目で学んだ内容を整理し、「使える知識」にする。									
□授業の到達目標 ・ 自己学習の仕方を身につける。 ・ 介護の実践を想定して、専門職として相応しい態度や発言、行動などと、その根拠となる事柄（専門知識）を関連づけることができる。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				60	試験はありません。 出席状況及び授業態度を重視します。提出物などの課題については提出期限を厳守してください。				
試験等	提出物			－	□学生へのメッセージ 自己学習の仕方を身につけ、自ら進んで勉強に取り組む姿勢を身につけます。授業は個人またはグループでの討論を中心におこないます。予習をしたうえで、積極的に授業に参加してください。				
	レポート			－					
	随時試験			－					
	定期試験			－					
	平常の授業状況（授業態度）			40					
その他（		）	－						
合 計				100%					
□テキスト ・ クエスチョン・バンク 介護福祉士 国家試験問題解説2022（メディックメディア） ・ 介護福祉士国家試験 模擬問題集2022（中央法規）					□参考図書・資料・参考ホームページ 随時お知らせします。				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	領域：人間と社会について①	国家試験に関連した講義・演習
2	領域：人間と社会について②	
3	領域：人間と社会について③	
4	領域：人間と社会について④	
5	領域：介護について①	
6	領域：介護について②	
7	領域：介護について③	
8	領域：介護について④	
9	領域：こころとからだのしくみについて①	
10	領域：こころとからだのしくみについて②	
11	領域：こころとからだのしくみについて③	
12	領域：こころとからだのしくみについて④	
13	領域：医療的ケアについて	
14	総合問題について	
15	総括	

科目名	介護福祉事務			担当教員		内藤 麻紀		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	医療事務員として、訪問診療も行うクリニックで3年間勤務。実務経験をもとに分かりやすく丁寧に教授する。						
□位置付け 介護福祉事務における基礎的知識を養い、介護に関連する制度の理解を深める。									
□授業の目的 要介護状態になったとしても住み慣れた自宅や地域において生活が出来るよう、多彩な介護サービス主体が連携し合い利用者の生活を支えている。それと同時に介護福祉士は各介護サービスの中核に位置付けられ、介護保険の請求に関する知識を実践的な側面から理解を深めることを目的とする。									
□授業の到達目標 1. 介護保険制度についての基礎的知識を学ぶ。 2. 介護報酬請求（居宅サービス、施設サービス）に関する基礎的知識を学ぶ。 3. 「介護事務管理士 技能認定試験」の合格を目指す。									
□成績評価の方法			評価項目	割合	□成績評価に関するコメント				
出席状況				20	出席状況と授業への取り組み姿勢は評価の基本とします。				
試験等	提出物				□学生へのメッセージ				
	レポート				介護福祉士として働くにあたり、介護サービスの種類と介護保険について総合的に学びます。試験に向けて、自主的に取り組みましょう。				
	随時試験				・持ち物：電卓、ラインマーカー				
	定期試験			70					
	平常の授業状況（授業態度）			10					
			その他（ ）						
合 計				100%					
□テキスト 介護事務テキスト テキスト1・2・資料ブック 株式会社ソラスト					□参考図書・資料・参考ホームページ				

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護保険制度の概要	介護保険制度のしくみ
2	介護サービス	介護サービスの種類と内容、提供機関
3	介護サービスのしくみ①	支給限度額のしくみ・給付管理業務
4	介護サービスのしくみ②	請求と支払いのしくみ・介護報酬の特徴と原則
5	居宅サービス①	居宅サービスの算定①
6	居宅サービス②	居宅サービスの算定②、居宅サービスのレセプトの書き方①
7	居宅サービス③	居宅サービスのレセプトの書き方②
8	支援サービス	支援サービスの算定とレセプトの書き方
9	福祉施設サービス①	福祉施設サービス算定とレセプトの書き方①
10	福祉施設サービス②	福祉施設サービス算定とレセプトの書き方②
11	保健施設サービス	保健施設サービスの算定とレセプトの書き方
12	療養施設サービス	療養施設サービスの算定とレセプトの書き方
13	地域密着型サービス	地域密着型サービスの算定・他制度との関係
14	利用者負担	主治医意見作成料・利用負担の徴収
15	定期試験	筆記試験

2022 SYLLABUS 講義要項

発行日 2022年4月1日

発行人 橋本 正樹

発行所 学校法人 川口学園

早稲田速記医療福祉専門学校

〒171-8543 東京都豊島区高田3-11-17